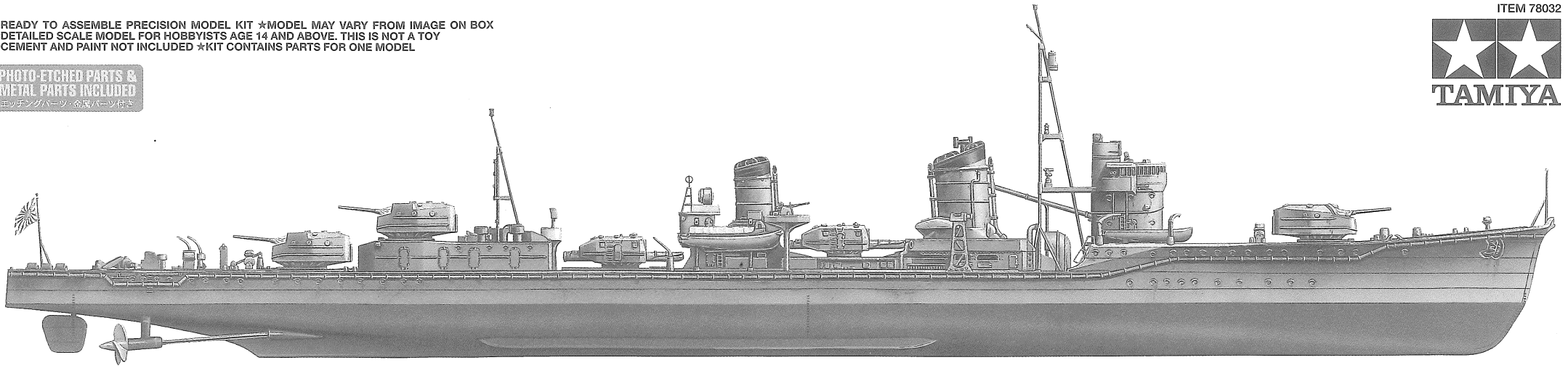




*READY TO ASSEMBLE PRECISION MODEL KIT *MODEL MAY VARY FROM IMAGE ON BOX
*DETAILED SCALE MODEL FOR HOBBYISTS AGE 14 AND ABOVE. THIS IS NOT A TOY
*CEMENT AND PAINT NOT INCLUDED *KIT CONTAINS PARTS FOR ONE MODEL

PHOTO-ETCHED PARTS &
METAL PARTS INCLUDED
エッチングパーツ・金属パーツ付き

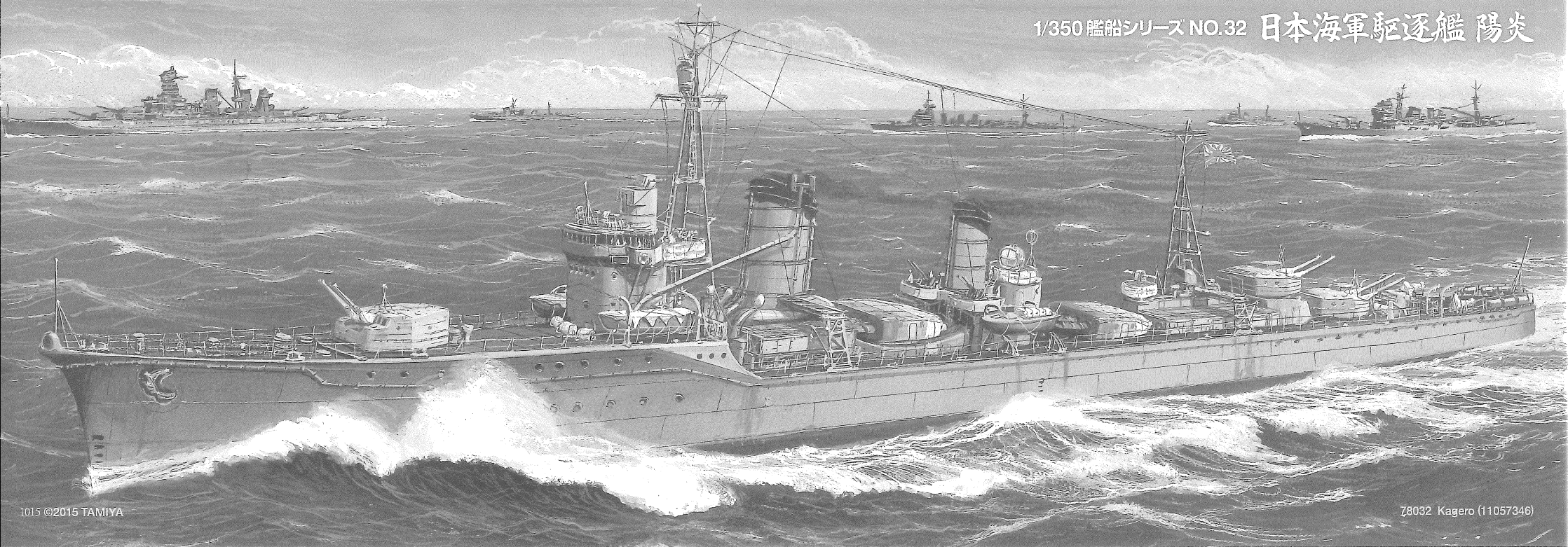


1/350th SCALE SHIP SERIES No.32
JAPANESE NAVY DESTROYER

KAGERO

陽炎

1/350 艦船シリーズ NO.32 日本海軍駆逐艦 陽炎



JAPANESE NAVY DESTROYER KAGERO

解説:小林 義秀 イラスト:上田 信/森 恒英

●駆逐艦陽炎型

「陽炎」は昭和14年11月6日に舞鶴海軍工廠で竣工した陽炎型駆逐艦の一番艦です。初代「陽炎」は日本海海戦においてバルチック艦隊のロジェストヴェンスキー提督を乗せて逃走するロシア駆逐艦ペドウィを捕獲する功績を上げた艦でした。その殊勲艦の名を継いだ二代目「陽炎」は日本海軍艦隊駆逐艦の決定版とも言える存在でした。陽炎型は前級の朝潮型の改良型で外観は類似していますが、全くの新型として設計され、速力や航続力の不満が改善されました。陽炎型は基準排水量2,000トン、最大速力35ノット、航続力は18ノットで5,000カイリ、12.7センチ連装砲3基、25ミリ連装機銃2基、61センチ四連装魚雷発射管2基という主要目になりました。

主砲は朝潮型と同じ直射専用で仰角55度のC型を採用、魚雷発射管も同じく九二式四連装発射管2基でした。しかし搭載する魚雷は強力な九三式酸素魚雷で、これを新造時から搭載した初めての駆逐艦となりました。九三式酸素魚雷は従来の圧縮空気に変えて、純酸素を酸化剤として使用することで燃焼効率を高め、これまでの4倍以上の長い射程(20,000m)と高速航行(50ノット、時速約90km/h)が可能。さらに炸薬の搭載量を増やすことで破壊力も大きくなり、加えて、燃焼時に発生する二酸化炭素は水に溶けやすく、航跡がほとんど目立たないため発見されにくいという特徴もあわせ持っていました。また、予備魚雷庫の配置も改善され、より迅速な再装填が可能となっています。機銃は後部煙突両側に九六式25ミリ連装機銃を配置、これを新造時から搭載した駆逐艦も本型が初めてです。

陽炎型駆逐艦は第三次軍備補充計画(通称③計画)で18隻、第四次軍備拡張計画(通称④計画)で4隻の合計22隻が計画されました。しかし、③計画の3隻分は大和型戦艦の建造予算のダミーであり、実際の建造数は合計19隻でした。昭和16年9月までに全艦が竣工した陽炎型は太平洋戦争開戦時における主力水雷戦隊を構成したのです。

●陽炎の戦歴

「陽炎」は陽炎型2番艦の「不知火」や朝潮型の「霞」、「叢」と共に第18駆逐隊を編成し太平洋戦争を迎えました。第18駆逐隊は昭和16年12月の真珠湾攻撃で第一水雷戦隊に加えられ、南雲艦隊の空母群の護衛として参加。それ以降もラバウル、コロンボ空襲などに同行し、南雲艦隊の最も華々しい時期を支えた一隻となりました。昭和17年5月のミッドウェー海戦では本来の第二水雷戦隊に戻り、攻略部隊の護衛に当たりました。ミッドウェー海戦から帰投後、第18駆逐隊は休む間もなく北方へ出撃しました。キスカ島への輸送部隊の護衛です。しかし、「陽炎」は本土近海の対潜作戦に当たっていたため、一隻だけ内地に残りました。この別行動は第18駆逐隊各艦の命

運を分けることになります。キスカ島へ向かった3隻は無事に到着したものの、7月5日未明、米潜水艦グラウラーの襲撃を受けてしまいます。深夜、停泊中に不意を突かれた3隻は、「不知火」と「霞」が雷撃により船体切断の大損害を受け、「叢」は轟沈してしまつたのです。「陽炎」は7月9日に輸送船「菊川丸」を護衛してキスカ島へ向かいますが、そこで待っていたのは大損害を受けた僚艦の姿でした。7月28日、大破した「霞」は吹雪型駆逐艦「雷」の曳船で帰国することになり、それを「陽炎」が護衛しました。第18駆逐隊は一気に3隻を欠いたため、「陽炎」は新たに第二水雷戦隊の第15駆逐隊に編入されました。第15駆逐隊は全て陽炎型で編成されていましたが、「夏潮」が雷撃で失われていたため、その空席に「陽炎」が編入されたのです。第15駆逐隊は「陽炎」、「早潮」、「黒潮」、「親潮」の編成となり、「霞」の護衛を終えた「陽炎」は、再び南方へ向けて横須賀を出撃しました。

●駆逐艦輸送作戦

南方の最前線ガダルカナル島では飛行場の争奪を中心とした日米の激戦が続いていましたが、強力な米軍の前に日本の陸軍部隊は苦戦していました。速やかな増援が必要でしたが、敵の制空権下ではままならず、高速の駆逐艦を輸送船として使用する奇策が実施されることになりました。輸送船役の駆逐艦群は挺身隊と称し、「陽炎」はその一隻として陸軍の兵士を乗せ出撃しました。護衛も含め6隻からなる部隊は22ノットの高速で南下し、昭和17年8月18日、フロリダ島タイボ岬で陸軍の兵員916名を揚陸。この作戦は無事に成功したため、以後、駆逐艦輸送は繰り返されます。しかし、それは日本の艦隊駆逐艦に多大な犠牲を強いる結果になってしまうのです。

「陽炎」はその後もショートランド島を基地としてガダルカナル島輸送に従事し、魚雷艇掃討や単独での陸上砲撃なども行っています。敵機の銃撃を受けたこともありましたが、大きな損害を受けることなく作戦を続けました。昭和17年11月半ば、陸軍部隊の飛行場奪還総攻撃が計画され、それに呼応した戦艦による飛行場夜間砲撃や大規模な増援輸送作戦などを実施。「陽炎」は輸送船団の護衛に当たりましたが、薄弱な対空兵装では空襲に抗えず、激しい攻撃で半数以上の輸送船を失ってしまいます。半減した輸送船団は夜間に再度の突入を図り、いずれも砂浜に乗り上げて揚陸を強行しましたが、肝心の重火器類は空襲などで揚陸できませんでした。この輸送船再突入直前に第三次ソロモン海戦(第二夜戦)が起こり、戦艦「霧島」と米戦艦サウスダコタ、ワシントンが交戦しますが、「陽炎」は戦闘海域至近にあったものの、戦闘に加わる機会は得られませんでした。

●ルンガ沖夜戦

輸送船での物資輸送は不可能となり、もはや駆逐艦の高速に頼るしか手段はなくなりました。苦肉の

策として考え出された作戦は、食料などを詰め込んだドラム缶を数珠つなぎにして投下、それを陸上から引き上げることでした。輸送量は微々たるものですが、ドラム缶を投下するだけなので離脱時間が短くて済む利点がありました。この作戦を「ドラム缶輸送」と呼びました。

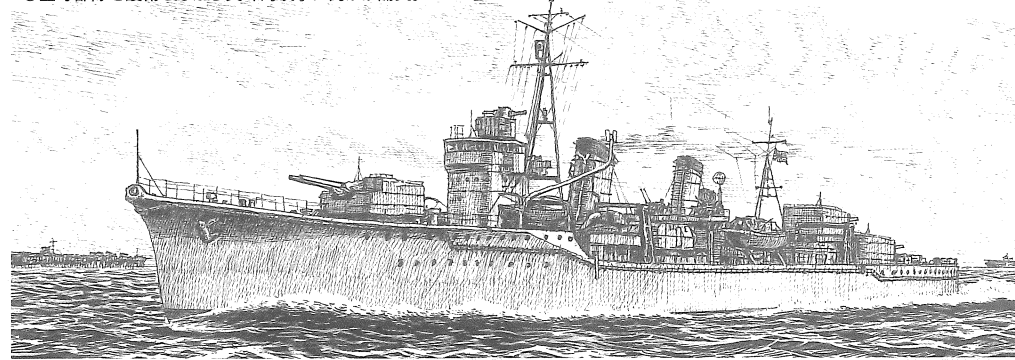
第一回目のドラム缶輸送は、昭和17年11月30日に実施されることになりました。「陽炎」を含む第二水雷戦隊の駆逐艦8隻は、ドラム缶を搭載した駆逐艦を護衛の駆逐艦が守る形で出撃。暗夜の海面を高速で進撃し、無事に目的地に到着しました。そして輸送を担当する駆逐艦が速度を落としてドラム缶投下が始まろうとしたその時、警戒に当たっていた護衛の駆逐艦「高波」が敵艦隊を発見しました。即座に警報が発せられ、「高波」は単独で敵に向かっていきます。第二水雷戦隊田中頼三司令官はドラム缶投下の中止を命ずると共に、「戦闘!」「突撃!」の命令を下しました。「陽炎」をはじめとする輸送任務の駆逐艦たちは、ドラム缶投下のためにほとんど停止に近い状態になりました。また、ドラム缶を搭載するために予備魚雷をおろした全く不利な状況での戦闘突入となったのです。警戒艦たちが戦闘を開始する中、低速状態にあった「陽炎」らは徐々に速度を上げつつ、暗闇に紛れて魚雷発射の好位置につけ、必殺の酸素魚雷を次々に発射しました。レーダー索敵で先手を取ったはずの米艦隊でしたが、砲撃中の旗艦ミネアポリスに突然魚雷が命中し艦首が吹き飛びます。続くニューオーリンズ、ペンサコラにも次々に魚雷が命中。後続のホノルル、ノーザンブントンは追突を避けようと舵を切りますが、その直後ノーザンブントにも魚雷が命中。同艦は大火災を起こして沈没しました。米軍巡洋艦群は一瞬にして戦闘力を失ったのです。射程が長く、破壊力が強力でも発見が困難という日本海軍の伝家の宝刀、九三式酸素魚雷の

威力が最大限に発揮された戦いでした。この夜戦で日本は「高波」を失いましたが、米軍に大損害を与え、日本の駆逐隊の完勝とも言える戦いとなりました。この海戦を「ルンガ沖夜戦」と呼びます(米軍の呼称は「タサファロンガ海戦」)。

●陽炎最後の戦い

その後も駆逐艦によるドラム缶輸送は繰り返されたため、駆逐艦の被害は増すばかりでした。「陽炎」も駆逐艦輸送を続けていましたが、昭和18年2月、久しぶりに帰国し、酷使された船体を呉で整備しました。整備完了後、「陽炎」は呉から再び南の激戦地へ出撃。「陽炎」にとって二度と戻ることのない、日本との別れとなりました。前線に戻った「陽炎」は、同じ第15駆逐隊の「黒潮」や「親潮」とともに輸送任務に就きます。第15駆逐隊は輸送作戦中の空襲で「早潮」を失い三隻編成になっていました。昭和18年5月8日、コロンバンガラ島への輸送を無事に終えた第15駆逐隊は反転して帰路につきました。コロンバンガラ島南岸狭水道を通過していたその時、「親潮」が突如爆発。魚雷攻撃と判断した「陽炎」と「黒潮」は爆雷攻撃を始めますが、続いて「陽炎」も爆発停止してしまいます。この攻撃は潜水艦ではなく機雷でした。米軍は日本の輸送隊がこのルートを使うことを掌握し、密かに機雷を敷設していたのです。停止した2隻を「黒潮」が警戒していましたが、その「黒潮」も「陽炎」の触雷からおよそ一時間後に触雷して轟沈してしまいました。ただ浮いているだけの2隻に対し米軍は空襲をかけますが、少数機だったこともあり被害は軽度でした。しかし、触雷の損害が徐々に広がった2隻は沈み始め、「親潮」が沈んで数時間後、「陽炎」はブレット水道北西口付近に沈んでいきました。歴戦の「陽炎」の静かな最後でした。一か月後の昭和18年6月20日、同時に失われた「陽炎」、「黒潮」、「親潮」は駆逐艦籍より除籍されました。

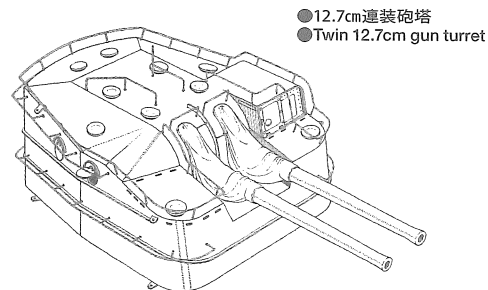
●空母部隊を護衛しながら真珠湾攻撃に向かう陽炎。



A Watershed Design

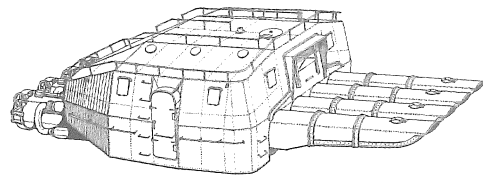
The Kagero was completed on November 6th, 1939 at the Maizuru Naval Arsenal, the lead ship of the Kagero destroyer class and inheriting her name from a storied predecessor that took part in the Battle of Tsushima during the Russo-Japanese war in the early 20th century. While outwardly somewhat similar to the ships of the preceding Asashio class, Kagero class vessels were in fact designed as an entirely new class, and could be said to represent the pinnacle of Japanese Navy destroyer design: displacement of 2,000 tons, with a top speed of 35 knots and a range of 5,000nm at 18 knots. They were armed with three twin 12.7cm guns in type C turrets (maximum elevation: 55°), with supplementary fire provided by two twin 25mm Type 96 gun mounts. Perhaps most importantly, Kagero class ships were the first designed with ability to use the formidable Type 93 "long lance" torpedo from the outset; they had two quadruple 61cm torpedo tubes for this purpose. The Type 93 used compressed oxygen in its propulsion system to great effect, allowing range of up to 20km, quadruple that achievable with preceding technology. Moreover, they traveled at up to 100km/h and left far less noticeable vapor trails, leading to greater stealth.

On paper, a total of twenty-two Kagero class destroyers



● 12.7cm 連装砲塔
● Twin 12.7cm gun turret

● 九二式61cm四連装魚雷発射管
● Type 92 quadruple torpedo launcher



were planned, eighteen under the 3rd Naval Replenishment Program and a further four under the 4th Naval Replenishment Program; however, as three of these were a dummy for the naval budget of the Yamato class of battleships, only nineteen were ever actually built. All were completed by September 1941, and assigned to the vital Destroyer Squadrons at the outbreak of war in the Pacific later that year.

The Kagero in Battle

Kagero and Destroyer Division 18 were attached to Destroyer Squadron 1 for the attack on Pearl Harbor in December 1941, which sparked conflict in the Pacific. Together with fellow Kagero class destroyer Shiranui and

Asashio class ships, she was used as an escort for the aircraft carriers in Vice-Admiral Nagumo's carrier strike force that implemented the attack, and performed similar roles in raids on Rabaul and Colombo. She also took part in the critical Battle of Midway in June 1942, with escort duties for the Midway Invasion Force; by this time, she and Destroyer Division 18 had been re-integrated into Destroyer Squadron 2. After returning from the defeat at Midway, on July 9th she escorted the Kikukawa Maru transport ship to Kiska Island, coming back on the 28th of that month guarding badly damaged Division mate Kasumi, the victim of a U.S. submarine attack at Kiska. In fact, Destroyer Division 18 had lost three ships in the attack, and the Kagero was re-assigned to Destroyer Division 15 in Destroyer Squadron 2, joining fellow Kagero class destroyers Hayashio, Kuroshio and Oyashio as they steamed south from Yokosuka.

The Tokyo Express

As intense fighting continued for the airfields of Guadalcanal far to Japan's south, Japanese forces were beginning to feel the strain and in desperate need of reinforcement. With the U.S. now holding superiority in the air, it was decided to use high speed destroyers such as the Kagero to ship personnel and supplies, a program dubbed the Tokyo Express by U.S. forces. Kagero once again sailed south as part of a specially-formed unit of 6 vessels, on August 18th, 1942 successfully landing 916 troops for the relief of the garrison on the Florida Islands in the Solomons. It should be noted that many such missions run by other units did not meet with such success, however, damaging the efficacy of the Japanese Navy destroyer complement. The Kagero stayed in the area, and operating out of the Shortland Islands, she performed a number of tasks including reinforcement runs to Guadalcanal, torpedo boat sweeps and attacks on land installations. In mid-November 1942 Japanese commanders planned a major offensive aiming at wresting vital airfields from U.S. control; the Kagero was once again in action, escorting transport vessels trying to ferry in troop reinforcements. Lack of air defense doomed the errand despite the flotilla trying on two separate occasions, this happening against the backdrop of the Naval Battle of Guadalcanal, which despite its close proximity to the Kagero's group, failed to envelop her.

The Battle of Tassafaronga

With delivery of supplies by transport ships now largely impossible, Japanese forces were reduced to increasingly desperate methods of supplying their beleaguered troops – they stored supplies in oil or gas drums, chained them together and pushed them overboard for troops on land to haul in, in an effort to reduce the vulnerable period of time that the delivering destroyer had to stay in the area. The first attempt at this supply method took place on November 30th, 1942, with the Kagero and other Destroyer Squadron 2 ships involved. No sooner had they started trying to offload the barrels into the sea off of Tassafaronga on Guadalcanal, however, than the screening destroyer Takanami discovered an enemy presence. The other craft including Kagero had been virtually stationary in preparation for unloading – a disadvantageous situation, but they now rumbled slowly to life. As the fighting raged on they assumed a position from where they could let loose their Type 93 torpedoes to great effect, scoring hits on the Minneapolis, New Orleans, Pensacola and Northampton, crippling and eventually sinking the latter. The battle demonstrated the potential of the Japanese Navy's destroy-

ers, and more particularly of the ace up their sleeve, the Type 93 torpedo.

The Demise of the Kagero

Further continuation of supply by drum led to increasing damage to the Japanese Navy's destroyer fleet, and in February 1943 the Kagero was given a break from the supply runs for much-needed repairs at Kure Naval Arsenal. It was to be the last time that she made it to the Japanese mainland. Upon her return to the front line, she resumed supply runs with the Kuroshio and Oyashio as a part of Destroyer Division 15. On May 8th, the three ships were heading back to base having completed a transport run to Kolombangara, when the Oyashio fell victim to a sudden explosion in the narrow Blackett Strait. Assuming a torpedo strike Kagero and Kuroshio rushed to act, but the Kagero too was disabled by an explosion. The culprits were not torpedoes, rather mines laid there by U.S. vessels alerted to frequent Japanese use of the strait. The Kuroshio was actually first to sink, sliding quickly into the depths after an explosion of its own. The Kagero and Oyashio remained sitting ducks, and despite surviving subsequent attacks from the air, the mine damage progressed. Later that day, the Kagero slipped beneath the surface mere hours after the Oyashio. The three destroyers were removed from the navy list on June 20th, 1943.

* * * * *

Ein wasserdichtes Design

Die Kagero wurde am 6. November 1939 im Marinerearsenal von Maizuru auf Kiel gelegt. Sie war das Typschiff der Kagero Zerstörerklasse und übernahm den Namen von einem berühmten Vorgänger, der in der Schlacht von Tsushima während des Krieges mit Russland zu Beginn des 20. Jahrhunderts teilnahm. Trotz der äußerlichen Ähnlichkeit mit den Schiffen der vorherigen Asashio Klasse waren die Schiffe der Kagero Klasse völlig neu entwickelt und man kann sagen, dass sie den Höhepunkt in der Entwicklung der japanischen Zerstörerflotte bildeten. Sie hatten eine Verdrängung von 2000 Tonnen, eine Höchstgeschwindigkeit von 35 Knoten und einen Fahrbereich von 5000 Seemeilen bei 18 Knoten. Sie waren bestückt mit drei 12,7 cm Drillingsstürmen des Typ C (maximale Erhöhung 55 Grad). Ergänzt wurde diese Feuerkraft durch zwei 25 mm Zwillingsschiffen des Typs 96. Aber vielleicht am wichtigsten - diese Schiffe waren als erste mit den neuen Typ 93 „Weitschuss“ Torpedos ausgerüstet. Sie hatten dafür 2 Vierfachstarter für 61cm Torpedos an Bord. Der Typ 93 nutzte erfolgreich komprimierten Sauerstoff für den Antrieb, was eine Reichweite bis 20km erlaubte, das Vierfache der bisherigen Technologie. Dazu erreichten sie bis zu 100 km/h und hatten eine reduzierte „Blasenspur“, was ihre Entdeckbarkeit reduzierte.

Auf dem Papier waren 22 Zerstörer der Kagero Klasse geplant, 18 davon mit dem 3. Flottenergänzungsplan und 4 mit dem 4. Flottenergänzungsplan. Wie auch immer waren drei Schiffe als Platzhalter für das Schlachtschiffsprogramm der Yamato Klasse gedacht, wodurch nur 19 gebaut wurden. Alle waren im September 1941 fertig und wurden im Lauf des Jahres den wichtigen Zerstörergruppen nach Ausbruch des Krieges im Pazifik zugeteilt.

Die Kagero im Einsatz

Die Kagero und die Zerstörer Division 18 wurden der Zerstörergruppe 1 für den Angriff auf Pearl Harbour im Dezember 1941 zugeteilt, welcher den Krieg im Pazifik entzündete. Zusammen mit dem Schwesterschiff der

Kagero Klasse, der Shiranui und Schiffen der Asashio Klasse wurden Sie als Begleitzerstörer für die Trägerflotte von Admiral Nagumo eingesetzt, welcher den Angriff leitete. Sie führten ähnliche Aufträge aus bei Angriffen auf Rabaul und Colombo. Die Kagero nahm auch in der kritischen Schlacht von Midway teil und eskortierte die Kräfte zur Invasion auf Midway. Zu dieser Zeit war die Zerstörer Division zur Zerstörergruppe 2 zurückgekehrt. Nach der Rückkehr von der Niederlage bei Midway am 9. Juli eskortierte sie das Transportschiff Kikukawa Maru zur Insel Kiska und kam am 28. des selben Monats als Begleitung des schwer beschädigten Zerstörers Kasumi zurück, der Opfer eines amerikanischen U-Boot Angriffes bei Kiska geworden war. Die Japanische Marine verlor drei Schiffe in diesem Gefecht und die Kagero wurde der Zerstörer Division 15 in der Zerstörergruppe 2 unterstellt und fuhr mit den Schwesterschiffen Hayashio, Kuroshio und Oyashio südwärts.

Der Tokio Express

Als die intensiven Gefechte um die Flugfelder von Guadalcanal weit im Süden Japans andauerten, begannen die Japanischen Streitkräfte den steigenden Druck zu spüren und waren nahezu verzweifelt auf Nachschub angewiesen. Da die Amerikaner die Lufthoheit erkaämpft hatten beschloss man die schnellen Schiffe der Kagero Klasse einzusetzen, um Material und Truppen zu transportieren. Das Programm war eine Kopie des amerikanischen Tokio Express. Am 18. August 1942 fuhr die Kagero mit einer speziell zusammengesetzten Gruppe von 6 Schiffen erneut nach Süden und brachte erfolgreich 916 Soldaten als Verstärkung der Garnison auf die Florida Inseln bei den Solomonen. Nicht alle derartigen Missionen anderer Einheiten führten zum Erfolg und das schwächte die Zerstörerkomponente der Marine erheblich. Die Kagero blieb in der Region und operierte bei den Shortland Inseln. Sie führte eine Reihe von Verstärkungsoperationen für Guadalcanal durch, jagte Torpedoboote und griff Befestigungen an Land an. Mitte November 1942 planten die Japanischen Kommandeure einen größeren Angriff um die wichtigen Flugplätze der amerikanischen Kontrolle zu entreissen. Die Kagero wurde eingesetzt um Truppentransporter mit Verstärkungen zu schützen. Die fehlende Luftunterstützung verhinderte einen Erfolg, obwohl die Flotte zwei Angriffe startete. Auch die nahe Gruppe der Kagero konnte das Blatt nicht wenden.

Die Schlacht von Tassafaronga

Da der Transport über Transportschiffe nahezu unmöglich geworden war nutzten die japanischen Streitkräfte verzweifelte Methoden, um ihre belagerten Truppen zu versorgen. Sie packten die Versorgungsgüter in leere Öl- oder Benzinfässer, ketteten sie aneinander und warfen sie über Bord zu den wartenden Truppen an Land um die gefährlich lange Verweildauer der Zerstörer zu minimieren. Der erste Versuch dieser Versorgung fand am 30. November 1942 statt und es wurde die Kagero und einige andere Schiffe der 2. Zerstörergruppe eingesetzt. Gerade als sie begonnen hatten, die Fässer in die See bei Tassafaronga bei Guadalcanal zu werfen, meldete der zur Überwachung eingeteilte Zerstörer Takanami Feindkräfte. Die anderen Schiffe mit der Kagero mussten durch den Entladeprozess am Ort bleiben - eine sehr unvorteilhafte Position -, aber sie kamen dann doch langsam in Fahrt. Als das Gefecht startete brachten sie sich in eine Position, von der aus sie ihre Typ 93 Torpedos einsetzen konnten und sie erzielten Treffer auf der Minneapolis, der New Orleans, auf der Pensacola und der Northampton die schwer getroffen wurde und später

sank. Die Schlacht zeigte das Potential der Zerstörer und insbesondere das Ass im Ärmel - der Torpedo Typ 93. **Das Ende der Kagero**

Die Fortführung der Versorgung über Fässer führte zu steigenden Schäden an der Japanischen Zerstörerflotte und die Kagero erhielt im Februar 1943 eine Pause für dringend notwendige Reparaturen im Marinarsenal von Kure. Das sollte der letzte Aufenthalt am Japanischen Mutterland sein. Zurück an der Front nahm sie erneut als Teil der Zerstörer Division 15 Transporte mit der Kuroshio und der Oyashio auf. Am 8. Mai fuhren die Schiffe nach einem Transport für Kolombangara zurück zur Basis, als eine heftige Explosion auf der Oyashio in der engen Straße von Blackett bemerkt wurde. Da man einen Torpedoaangriff annahm, eilten die Kagero und die Kuroshio heran, aber auch die Kagero wurde durch eine Explosion außer Gefecht gesetzt. Die Detonationen kamen aber nicht von Torpedos, sondern eher von Minen, die die Amerikaner gelegt hatten, als sie von der häufigen Nutzung der Straße durch japanische Kriegsschiffe erfahren hatten. Die Kuroshio sank als erste nach einer großen Explosion im Inneren des Schiffs. Die Kagero und die Oyashio verblieben hilflos und zusätzlich zu einigen Angriffen aus der Luft verstärkten sich die Minenschäden. Später am Tag sank die Kagero, einige Stunden vor der Oyashio. Die drei Zerstörer wurden am 20. Juni 1943 aus der Marineliste gestrichen.

* * * * *

Un Tournant Majeur

Le Kagero entra en service le 6 novembre 1939 à l'Arsenal Naval de Maizuru. Premier bâtiment de la classe de destroyers Kagero, il avait hérité du nom d'un prédécesseur ayant pris part à la Bataille de Tsushima pendant la Guerre Russo-Japonaise au début du 20^{ème} Siècle. Bien qu'extérieurement ressemblants aux bâtiments de la classe Asashio précédente, ceux de la classe Kagero étaient en fait entièrement nouveaux, le nec plus ultra des destroyers japonais de l'époque ; déplacement de 2.000 tonnes, vitesse maximale de 35 nœuds, et autonomie de 5.000 miles nautiques à 18 nœuds. Ils étaient armés de trois tourelles

doubles de 127mm Type C (élévation maxi : 55°), la puissance de feu supplémentaire étant fournie par deux batteries de canons doubles de 25mm Type 96. De plus, les bâtiments de la classe Kagero étaient les premiers conçus d'origine pour mettre en œuvre la redoutable torpille "longue lance" Type 93 ; à cet effet, ils étaient équipés de deux batteries de tubes quadruples de 61cm. Le système de propulsion de la Type 93 utilisait de l'oxygène comprimé, lui conférant une autonomie de 20km, quatre fois plus qu'avec la technologie précédente. De plus, ces torpilles atteignaient 100km/h et étaient pratiquement invisibles, à part des traînées de vapeur difficilement discernables.

Sur le papier, un total de vingt-deux destroyers classe Kagero étaient prévus, dix-huit dans le cadre du 3^{ème} programme de réarmement naval et quatre autres dans le cadre du 4^{ème} programme. Cependant, trois d'entre eux étaient des leurres masquant le budget naval de la classe de cuirassés Yamato et dix-neuf furent réellement construits. Tous étaient terminés en septembre 1941 et déployés dans les escadrons de destroyers juste avant le déclenchement de la Guerre du Pacifique à la fin de la même année.

Le Kagero au Combat

Le Kagero et la Division de Destroyers 18 étaient rattachés à l'Escadron de Destroyers 1 pour l'attaque de Pearl Harbor en décembre 1941, qui déclencha le conflit. Accompagné du Shiranui de la même classe et d'autres destroyers de la classe Asashio, il escorta les porte-avions du groupe aéronaval du vice-amiral Nagumo qui participèrent à l'attaque de la base américaine. Il effectua des missions similaires à Rabaul et Colombo. Il prit également part à la Bataille de Midway en juin 1942, protégeant les forces d'invasion ; à cette époque, la Division de Destroyers 18 dont il faisait partie était maintenant affectée à l'Escadron de Destroyers 2. Revenu après la défaite de Midway, le 9 juillet il escorta le navire de transport Kikukawa Maru jusqu'à l'île de Kiska dans les Aléoutiennes. En revint le 28 du même mois, veillant sur le Kasumi, un destroyer de son unité victime de l'attaque d'un sous-marin US à Kiska. Lors de l'attaque, la Division de Destroyers 18 avait perdu trois navires et le Kagero fut réaffecté à la Division de Destroyers 15 dans l'Escadron de Destroyers 2 et rejoignit

les Hayashio, Kuroshio et Oyashio de la même classe croisant au sud de Yokosuka.

L'Express de Tokyo

Avec les combats violents pour la possession des aérodromes de Guadalcanal sur le front sud, les forces japonaises avaient désespérément besoin de renforts. Les américains ayant conquis la supériorité aérienne, il fut décidé d'employer des destroyers rapides comme le Kagero pour transporter des troupes et des approvisionnements, une procédure surnommée "L'Express de Tokyo" par les forces américaines. Le Kagero mit une nouvelle fois cap au sud, intégrant une unité de six bâtiments spécialement constituée. Le 18 août 1942, elle débarqua 916 hommes pour relever la garnison des Iles Florida dans les Salomons. On peut noter que de nombreuses missions de ce type menées par d'autres unités ne furent pas aussi réussies, jetant un doute sur l'efficacité des destroyers de la marine japonaise. Le Kagero demeura dans le secteur et, opérant depuis les Iles Shortland, il effectua différentes missions incluant l'acheminement de renforts à Guadalcanal, des raids contre des vedettes lance-torpilles et des attaques d'installation terrestres. A la mi-novembre 1942, le commandement japonais planifia une grande offensive visant à prendre le contrôle des aérodromes vitaux tenus par les américains ; le Kagero était encore une fois de l'opération, escortant les navires de transport tentant d'acheminer des troupes de renfort. L'absence de protection aérienne fit échouer la mission malgré deux tentatives, et ce au moment où la Bataille Navale de Guadalcanal se déroulait à proximité sans toutefois intéresser le groupe du Kagero.

La Bataille de Tassafaronga

L'acheminement par mer de troupes et matériel maintenant pratiquement impossible, les japonais usèrent de méthodes désespérées pour ravitailler leurs garnisons assiégées - ils utilisèrent des fûts de carburant vidés et nettoyés qu'ils remplirent de nourriture et de fournitures médicales qu'ils enchaînaient les uns aux autres. A proximité de la côte, les fûts étaient poussés par-dessus-bord et les troupes au sol tiraient sur un filin pour les récupérer. Cela permettait de réduire le temps de présence des destroyers dans une zone

où ils étaient vulnérables. La première tentative de ravitaillement de ce genre eut lieu le 30 novembre 1942, menée par le Kagero et d'autres bâtiments de l'Escadron de Destroyers 2. Ils se préparaient à mettre à l'eau les fûts au large de Tassafaronga à Guadalcanal, lorsque le destroyer de protection Takanami détecta une présence ennemie. Les autres navires, dont le Kagero, étaient pratiquement à l'arrêt en préparation du déchargement - une situation très désavantageuse, mais ils se remirent lentement en route. Une fois le combat engagé, ils purent rejoindre une position leur permettant d'exploiter pleinement les capacités de leurs torpilles Type 93, touchant les Minneapolis, New Orleans, Pensacola et Northampton, endommageant fortement et même coulant ce dernier. Cette bataille démontra la valeur des destroyers de la Marine Japonaise et plus particulièrement celle de leur arme maîtresse, la torpille Type 93.

La Fin du Kagero

La poursuite des ravitaillements par fûts causa de plus en plus de dommages aux destroyers de la Marine Japonaise et en février 1943, le Kagero mit le cap vers l'Arsenal Naval de Kure pour y effectuer les réparations nécessaires. Ce fut la dernière fois qu'il séjourna dans l'archipel japonais. A son retour dans la zone de combat, il reprit les missions de ravitaillement avec les Kuroshio et Oyashio, dans la Division de Destroyers 15. Le 8 mai, les trois navires revenaient à leur base après avoir ravitaillé Kolombangara, lorsque le Oyashio fut victime d'une explosion soudaine dans l'étroit Déroit de Blackett. Supposant une attaque à la torpille, le Kagero et le Kuroshio se mirent en ordre de bataille, mais le Kagero fut alors également secoué par une explosion. Les coupables n'étaient pas des torpilles mais de mines posées par des navires américains ayant remarqué le passage fréquent des japonais dans le détroit. Après avoir à son tour percuté une mine, le Kuroshio fut le premier à sombrer rapidement dans les profondeurs. Le Kagero et le Oyashio à l'arrêt étaient des cibles faciles, et bien qu'ils résistent aux attaques aériennes qui s'en suivirent, les dommages occasionnés par les mines s'aggravèrent. Plus tard dans la journée, le Kagero sombra quelques heures après le Oyashio. Les trois destroyers furent rayés de l'inventaire de la Marine Japonaise le 20 juin 1943.

《陽炎型駆逐艦一覽》

The Ships of the Kagero Class

★竣工日順
★In order of completion


■陽炎 KAGERO	1939/11/6 1943/5/8	舞鶴海軍工廠にて竣工。 Completed at Maizuru Naval Arsenal コロナンガラ島沖にて沈没。 Sunk off of Kolombangara
■不知火 SHIRANUI	1939/12/20 1944/10/27	浦賀船渠にて竣工。 Completed at Uruga Dock Company シブヤン海にて沈没。 Sunk in Sibuyan Sea
■雪風 YUKIKAZE	1940/1/20 1947/7/6	佐世保海軍工廠にて竣工。 Completed at Sasebo Naval Arsenal 終戦後、中華民国へ譲渡される。 Transferred to Republic of China post-WWII
■黒潮 KUROSHIO	1940/1/27 1943/5/8	藤永田造船所にて竣工。 Completed at Fujinagata Shipyards コロナンガラ島沖にて沈没。 Sunk off of Kolombangara

■初風 HATSUKAZE	1940/2/15 1943/11/2	神戸川崎造船所にて竣工。 Completed at Kawasaki Dockyard ブーゲンビル島沖にて沈没。 Sunk off of Bougainville
■親潮 OYASHIO	1940/8/20 1943/5/8	舞鶴海軍工廠にて竣工。 Completed at Maizuru Naval Arsenal コロナンガラ島沖にて沈没。 Sunk off of Kolombangara
■夏潮 NATSUSHIO	1940/8/31 1942/2/9	藤永田造船所にて竣工。 Completed at Fujinagata Shipyards タナケナ島沖にて沈没。 Sunk off of Makassar
■早潮 HAYASHIO	1940/8/31 1942/11/24	浦賀船渠にて竣工。 Completed at Uruga Dock Company ニューギニア島沖にて沈没。 Sunk off of New Guinea
■天津風 AMATSUKAZE	1940/10/26 1945/4/10	舞鶴海軍工廠にて竣工。 Completed at Maizuru Naval Arsenal アモイ島沖にて自沈。 Scuttled off of Amoy

■磯風 ISOKAZE	1940/11/30 1945/4/7	佐世保海軍工廠にて竣工。 Completed at Sasebo Naval Arsenal 東シナ海にて自沈。 Scuttled in East China Sea
■時津風 TOKITSUKAZE	1940/12/15 1943/3/3	浦賀船渠にて竣工。 Completed at Uruga Dock Company ビスマルク海にて沈没。 Sunk in Bismarck Sea
■浦風 URAKAZE	1940/12/15 1944/11/21	藤永田造船所にて竣工。 Completed at Fujinagata Shipyards 台湾海峡にて沈没。 Sunk in Taiwan Strait
■嵐 ARASHI	1941/1/27 1943/8/6	舞鶴海軍工廠にて竣工。 Completed at Maizuru Naval Arsenal コロナンガラ島沖にて沈没。 Sunk off of Kolombangara
■萩風 HAGIKAZE	1941/3/31 1943/8/6	浦賀船渠にて竣工。 Completed at Uruga Dock Company コロナンガラ島沖にて沈没。 Sunk off of Kolombangara

■谷風 TANIKAZE	1941/4/25 1944/6/9	藤永田造船所にて竣工。 Completed at Fujinagata Shipyards タウイタウイ島沖にて沈没。 Sunk off of Tawi-Tawi
■野分 NOWAKI	1941/4/28 1944/10/25	舞鶴海軍工廠にて竣工。 Completed at Maizuru Naval Arsenal サンベルナルジノ海峡にて沈没。 Sunk in San Bernardino Strait
■浜風 HAMAKAZE	1941/6/30 1945/4/7	浦賀船渠にて竣工。 Completed at Uruga Dock Company 東シナ海にて沈没。 Sunk in East China Sea
■舞風 MAIKAZE	1941/7/15 1944/2/17	藤永田造船所にて竣工。 Completed at Fujinagata Shipyards トラック島沖にて沈没。 Sunk off of Truk island
■秋雲 AKIGUMO	1941/9/27 1944/4/11	浦賀船渠にて竣工。 Completed at Uruga Dock Company サンボアンガ近海にて沈没。 Sunk off of Zamboanga Peninsula

INSTANT CEMENT

《瞬間接着剤について》 

★通常は塗装する前に使用します。その際、接着面の油分を十分に取ってください。塗装後に接着する場合は接着面の塗料を落としてから使用します。この時、塗料が残っていると接着力が極端に低下するので注意しましょう。

★接着剤をつけすぎると接着力が落ちるだけでなく、白化しやすくなるので注意してください。

★劣化した接着剤は使用しないでください。不要な部品で試してから使用してください。

★使用する際は瞬間接着剤の取扱説明をよく読んでからご使用ください。

INSTANT CEMENT

★Remove any paint or oil from cementing surface before affixing parts.

★Use only a small amount of cement. Too much cement will make joints turn white and lose adhesion.

★Do not use old cement. Test cement first with

unnecessary parts such as sprues before use.

★Carefully read instructions on use before cementing.

SEKUNDENKLEBER

★Entfernen Sie alle Farbe und Ölflecke von der Klebeoberfläche bevor sie Teile ankleben.

★Verwenden Sie nur geringe Mengen Klebstoff. Bei zuviel Klebstoff kann sich die Verbindung verschieben und die Haftkraft verloren gehen.

★Verwenden Sie keinen alten Klebstoff. Testen Sie den Kleber vor der Anwendung zuerst mit nicht benötigten Teilen etwa vom Spritzling.

★Vor dem Kleben die Gebrauchsanleitung sorgfältig lesen.

COLLE RAPIDE

★Enlever les traces de peinture ou de graisse des surfaces de contact avant de coller les pièces.

★N'utiliser qu'une petite quantité de colle. Un excès peut blanchir les lignes de joint et limiter l'adhésion.

★Ne pas utiliser une colle périmée. Tester la colle sur des pièces inutilisées comme des morceaux de grappes avant utilisation effective.

★Lire soigneusement les instructions avant de coller.

PHOTO-ETCHED PARTS

《エッチングパーツ》

①切りはなす時はカッターナイフなどを使用してパーツを切りはなします。

②切り出した時、部品に出張った部分が残っている場合は、ヤスリなどで丁寧に削り落とします。

③塗装が必要なパーツは下地にメタルプライマーを吹きつけてから塗装します。

●エッチングパーツはたいへん薄く、手などを切る恐れがあります。取り扱いには十分注意してください。

PHOTO-ETCHED PARTS

①Cut off photo-etched parts using a modeling knife.

②Carefully remove any excess using a file.

③Apply metal primer prior to painting.

●Extra care should be taken to avoid personal injury when handling photo-etched parts.

FOTOGEÄTZTE TEILE

①Die fotogeätzten Teile mit einem Modellbaumesser

abschneiden.

②Überstände vorsichtig mit einer Feile entfernen.

③Vor dem Lackieren Metall-Grundierung auftragen.

●Beim Umgang mit fotogeätzten Teilen sollte man besondere Vorsicht walten lassen, um Verletzungen zu vermeiden.

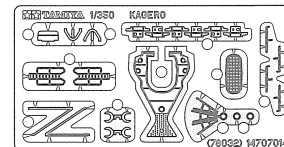
PIÈCES PHOTO-DÉCOUPÉES

①Détacher les pièces photo-découpées avec un couteau de modéliste.

②Enlever les parties excédentaires en les limant soigneusement.

③Appliquer de l'apprêt pour métal Tamiya avant de peindre.

●Manipuler les pièces photo-découpées avec précaution pour éviter les blessures.



PAINTING TIPS

《塗装する前に》

各部品の塗装する面のゴミやほこり、油などを柔らかい布で拭き取ってください。中性洗剤で1度洗っておくのもよいでしょう。接着剤のはみ出しやキズは塗装では隠せません。カッターナイフや目の細かな紙ヤスリで修正します。また、パーティングライン（部品にのこる成型行程上の合わせ目）もヤスリをかけ修正塗装します。

《塗装用具について》

タミヤモデリングブラシ、とき皿、ウエス（ボロ布）をご用意ください。タミヤでは各種モデリングブラシをとりそろえてあります。筆塗りする場所や用途に合わせてご用意ください。塗装し終わった筆はウエスでよく塗料をぬぐい取り、溶剤エナメル用とアクリル用がありますので注意してください。よく塗料を洗い流し、水洗いしてから保管します。

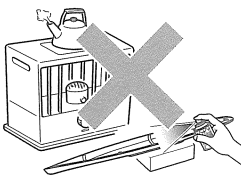


《スプレー塗装》

船体やブリッジなどの大きなパーツの塗装には、広い面積の塗装でもムラがでにくく美しい仕上がりが楽しめるスプレー塗料が便利です。また、同じ塗装色で仕上げるパーツはできるだけ組み立ててから塗装するのがよいでしょう。★スプレー塗料は缶に印刷された注意をよく読んで正しく使用してください。また、火気のある場所での塗装は絶対にしないでください。

《小さなパーツの塗装》

小さなパーツの塗装には筆塗り塗料が最適です。パーツはランナーから切り取らずに、ランナーについてままで塗装すると作業がしやすくなります。



PRIOR TO PAINTING

●Remove all dust and oil from parts prior to painting. If necessary, wash with detergent, rinse off thoroughly and allow to air dry.

●Remove excess cement, fill in and clean up joints and seam lines. Smooth surface using a modeling knife and fine abrasive papers.

BRUSH PAINTING

●Brush painting is the most common method of adding color to models, especially for the fine detail. In addition to the basic paints and brushes, the following items come in handy when painting: exclusive paint thinner, an empty paint jar or small paint tray, and rags. After painting, wipe paint from brush with rags and clean brush with thinner.

●Allow adequate ventilation while painting.

SPRAY PAINTING

●For finishing large areas, the use of spray paints or an airbrush will provide an even finish. Use a cardboard box, newspapers, etc. to keep from painting other areas.

●Objects to be painted should be secured on a base, so that you have access to all areas. Use double-sided tape or spring clips for holding small parts.

★Do not paint near open flames or any other heat sources.

VOR DER LACKIERUNG

●Vor der Lackierung alle Staub- und Ölrreste entfernen. Mit Spülmittel abwaschen, wenn nötig, gründlich spülen und an der Luft trocknen lassen.

●Überflüssigen Klebstoff entfernen, Modell abspachteln und Fugen verschließen. Oberflächen mit Modelliermesser bearbeiten, abspachteln und schmirgeln.

BEMALUNG MIT PINSEL

●Die Bemalung mit einem Pinsel ist die üblichste Methode der Bemalung und besonders der kleinen Einzelheiten. Zusätzlich zu den Farben und Pinseln sind folgende Gegenstände für die Bemalung nützlich: speziell für Farben entwickelter Verdünner, ein leerer Farbtopf oder Farbpalette und ein Wischtuch. Nach dem Bemalen mit einem Tuch Farbe vom Pinsel wischen und Pinsel mit Verdünner reinigen.

●Sorgen Sie bei der Bemalung für ausreichende

Belüftung.

SPRÜH-LACKIERUNG

●Bei der Lackierung von großen Flächen erreicht man mit Sprüh- oder Airbrush-Farben eine glatte Oberfläche. Es wird empfohlen, an einem klaren Tag mit geringer Luftfeuchtigkeit zu arbeiten. Sprüh-Farben, wenn möglich, draußen an einem schattigen und windstillen Platz verarbeiten. Karton, Zeitungen usw. verwenden, um nicht versehentlich andere Flächen mit einzufärben.

●Das zu bearbeitende Objekt auf einen Sockel stellen, sodaß Sie von allen Seiten herankommen. Verwenden Sie die Doppelklebeband oder Federklammern um Kleinteile zu halten.

★Das Modell nicht in Nähe eines offenen Feuers lackieren.

PREPARATION

●Enlever la poussière et la graisse de toutes les pièces devant être peintes. Si nécessaire, les nettoyer avec un détergent, rincer soigneusement et laisser sécher.

●Éliminer tout excès de colle, mastiquer et poncer les jointures et lignes de moulage (papier abrasif fin).

PEINTURE AU PINCEAU

●C'est la méthode la plus employée, en particulier pour les détails. En plus des peintures et pinceaux classiques, les accessoires suivants sont d'une grande utilité: diluant, pots de peinture vides ou palette et des chiffons. Après exécution, nettoyer le pinceau avec un chiffon et le rincer au diluant.

PEINTURE A LA BOMBE

●Pour peindre de grandes surface, les bombes aérosols ou l'aérographe sont indispensables pour assurer un fini parfait. Installer les pièces à peindre sur un carton, du journal... pour protéger les alentours.

●Les pièces doivent être fixées sur un support afin de pouvoir accéder à toute leur surface. Utiliser l'adhésif double face ou les clips pour maintenir en place des pièces plus petites.

★Ne pas opérer près d'une flamme.

PAINT REQUIRED

TS-33 ●ダレルド / Dull red / Mattrot / Rouge mat

TS-66 ●呉海軍工廠グレイ (日本海軍) / IJN Gray (Kure arsenal) / IJN Grau (Kure (XF-75) Arsenal) / Gris Marine Japonaise (arsenal de Kure)

TS-69 ●リノウム甲板色 / Linoleum deck brown / Linoleumdeck-Braun / Brun linoleum

X-2 ●ホワイト / White / Weiß / Blanc

X-7 ●レッド / Red / Rot / Rouge

X-10 ●ガンメタル / Gun metal / Metall-Grau / Gris acier

X-11 ●クロームシルバー / Chrome silver / Chrom-Silber / Aluminium chromé

X-12 ●ゴールドリーフ / Gold leaf / Gold Glänzend / Doré

X-28 ●パークグリーン / Park green / Grasgrün / Vert pré

XF-1 ●フラットブラック / Flat black / Matt Schwarz / Noir mat

XF-2 ●フラットホワイト / Flat white / Matt Weiß / Blanc mat

XF-9 ●ハルレッド / Hull red / Rumpf Rot / Rouge brique

XF-56 ●メタリックグレイ / Metallic grey / Grau-Metallic / Gris métallisé

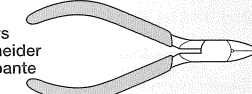
XF-57 ●バフ / Buff / Lederfarben / Chamois

XF-59 ●デザートイエロー / Desert yellow / Sandgelb / Jaune désert

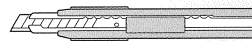
RECOMMENDED TOOLS

接着剤
(プラスチック用)
Cement
Kleber
Colle

ニッパー
Side cutters
Seitenschneider
Pince coupante

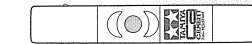
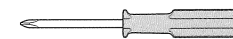


ナイフ
Modeling knife
Modelliermesser
Couteau de modéliste



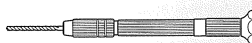
ピンセット
Tweezers
Pinzette
Précelles

+ ドライバー (小)
+ Screwdriver (small)
+ Schraubenzieher (klein)
Tournevis + (petit)



瞬間接着剤 / Instant cement
Sekundenkleber / Colle rapide

ピンバイス (ドリル刃 2/1 / 0.8mm)
Pin vise (2/1 / 0.8mm drill bit)
Schraubstock (2/1 / 0.8mm Spiralbohrer)
Outil à percer (2/1 / 0.8mm de diamètre)



注意 ●このキットは組み立てモデルです。作る前に必ず説明書を最後までお読みください。また小学生などの低年齢の方が組み立てるときは、保護者の方もお読みください。また接着剤や塗料は、必ずプラスチック用をお使いください。(別売) ●工具の使用には、十分に注意してください。特にナイフ、ニッパーなどの刃物によるケガや事故に注意してください。●接着剤や塗料は使用する前にそれぞれよく読んでください。●小さなお子様のいる所でのご作業は、必ず換気袋をかぶっての作業を、小さな部品の飲み込みや、ビニール袋をかぶっての窒息などの危険な状況が考えられます。●エッチングパーツはたいへん薄く、手などを切りやすいので取り扱いには十分注意してください。

CAUTION ●Read carefully and fully understand the instructions before commencing assembly. A supervising adult should also read the instructions if a child assembles the model. ●When assembling this kit, tools including knives are used. Extra care should be taken to avoid personal injury. ●Read and follow the instructions supplied with paint and/or cement, if used (not included in kit). Use plastic cement and paints only. ●Keep out of reach of small children. Children must not be allowed to put any parts in their mouths or pull vinyl bags over their heads. ●Extra care should be taken to avoid personal injury when handling the photo-etched parts.

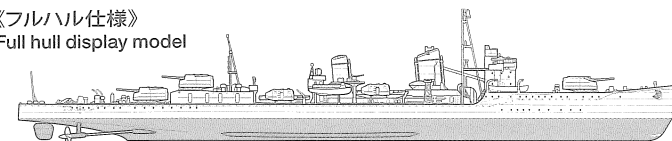
VORSICHT ●Bevor Sie mit dem Zusammenbau beginnen, sollten Sie alle Anweisungen gelesen und verstanden haben. Falls ein Kind das Modell zusammenbaut, sollte ein beaufsichtigender Erwachsener die Bauanleitung ebenfalls gelesen haben. ●Beim Zusammenbau dieses Bausatzes werden Werkzeuge einschließlich Messer verwendet. Zur Vermeidung von Verletzungen ist besondere Vorsicht angebracht. ●Wenn Sie Farben und/oder Kleber verwenden (nicht im Bausatz enthalten), beachten und befolgen Sie die dort beiliegenden Anweisungen. Nur Klebstoff und Farben für Plastik verwenden. ●Bausatz von kleinen Kindern fernhalten. Kindern darf keine Möglichkeit gegeben werden, irgendwelche Teile in den Mund zu nehmen oder sich Plastiktüten über den Kopf zu ziehen. ●Beim Umgang mit den fotogeätzten Teilen sollte man besondere Vorsicht walten lassen, um Verletzungen zu vermeiden.

PRECAUTIONS ●Bien lire et assimiler les instructions avant de commencer l'assemblage. La construction du modèle par un enfant doit s'effectuer sous la surveillance d'un adulte. ●L'assemblage de ce kit requiert de l'outillage, en particulier des couteaux de modélisme. Manier les outils avec précaution pour éviter toute blessure. ●Lire et suivre les instructions d'utilisation des peintures et ou de la colle, si utilisées (non incluses dans le kit). Utiliser uniquement une colle et des peintures spéciales pour le polystyrène. ●Garder hors de portée des enfants en bas âge. Ne pas laisser les enfants mettre en bouche ou sucer les pièces, ou passer un sachet vinyl sur la tête. ●Manipuler les pièces en métal photo-découpé avec précaution pour éviter les blessures.

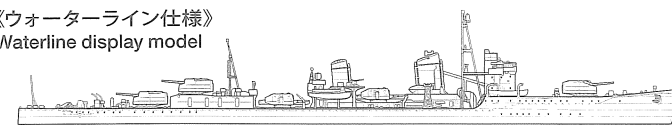
SELECTION

- フルハル仕様、ウォーターライン仕様のどちらかを選びます。
- Select either full hull display or waterline display model.
- Wählen Sie zwischen dem Komplettschiff oder dem Wasserlinienmodell.
- Choisir entre coque complète ou modèle Waterline.

《フルハル仕様》
Full hull display model



《ウォーターライン仕様》
Waterline display model



《使わない部品》……… B6, B39, B53, P3×1, P10×1, P12×2, P13×1, P16×1, P22×1, P23×1, P24×1, P25×2, P26×1, P27×2
Not used.
Nicht verwenden.
Non utilisées.

ASSEMBLY

1 船底の組み立て
Hull 1
Rumpf 1
Coque 1



このマークの部品は接着しません。
Do not cement.
Nicht kleben.
Ne pas coller.

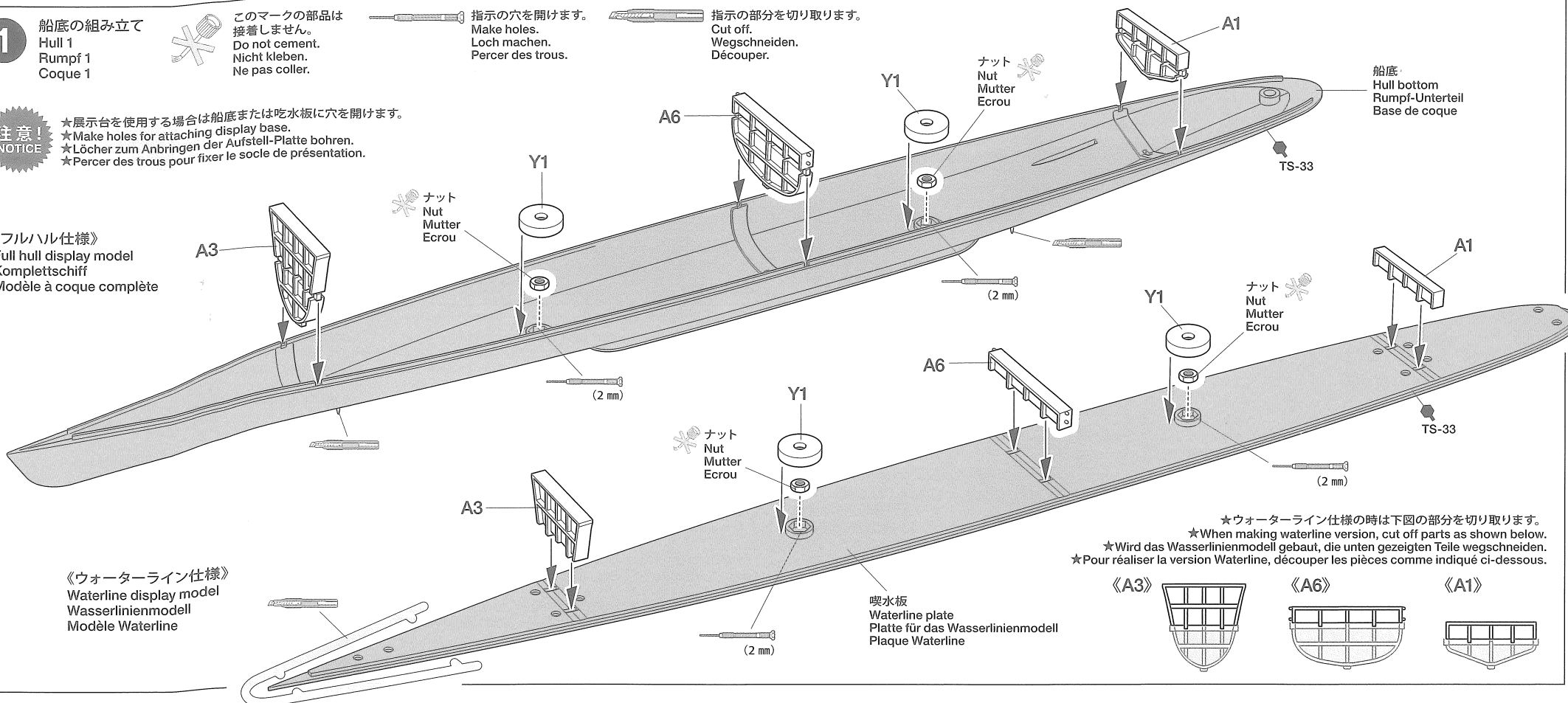
指示の穴を開けます。
Make holes.
Loch machen.
Percer des trous.

指示の部分を切り取ります。
Cut off.
Wegschneiden.
Découper.

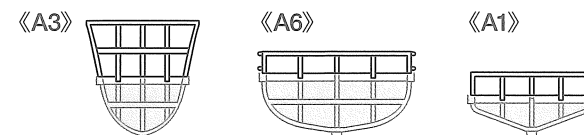
注意! ★展示台を使用する場合は船底または吃水板に穴を開けます。
★Make holes for attaching display base.
★Löcher zum Anbringen der Aufstell-Platte bohren.
★Percer des trous pour fixer le socle de présentation.

《フルハル仕様》
Full hull display model
Komplettschiff
Modèle à coque complète

《ウォーターライン仕様》
Waterline display model
Wasserlinienmodell
Modèle Waterline

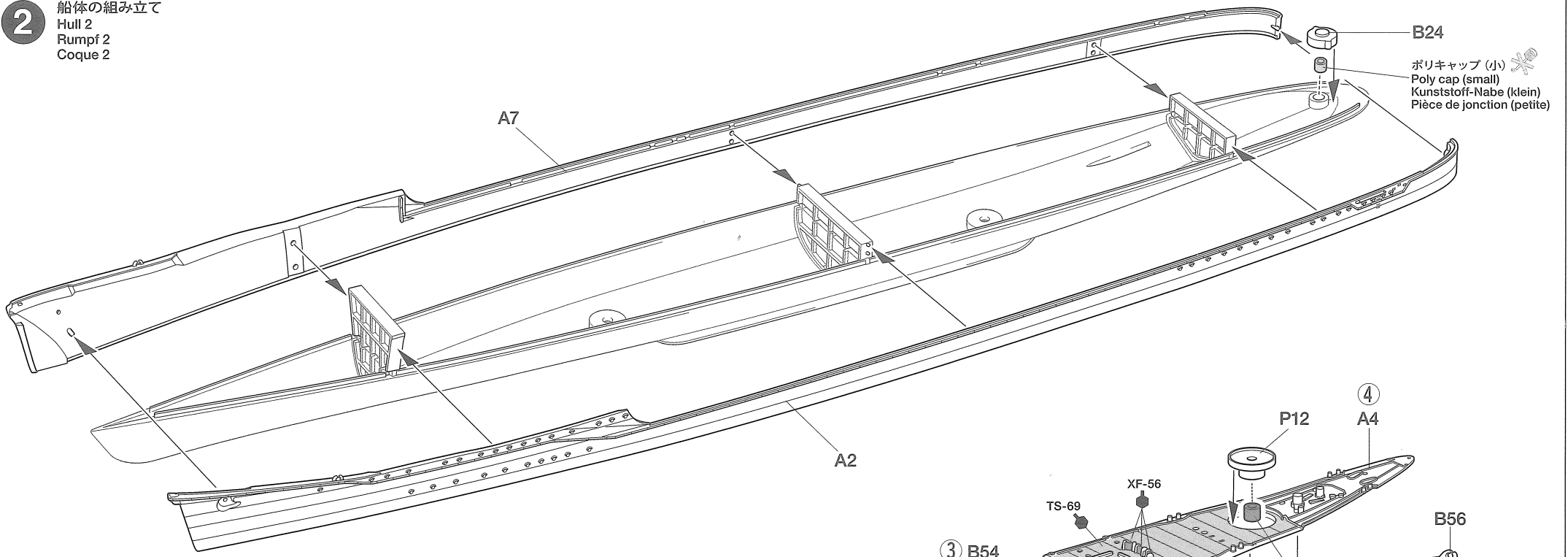


★ウォーターライン仕様の際は下図の部分切り取ります。
★When making waterline version, cut off parts as shown below.
★Wird das Wasserlinienmodell gebaut, die unten gezeigten Teile wegschneiden.
★Pour réaliser la version Waterline, découper les pièces comme indiqué ci-dessous.



2

船体の組み立て
Hull 2
Rumpf 2
Coque 2

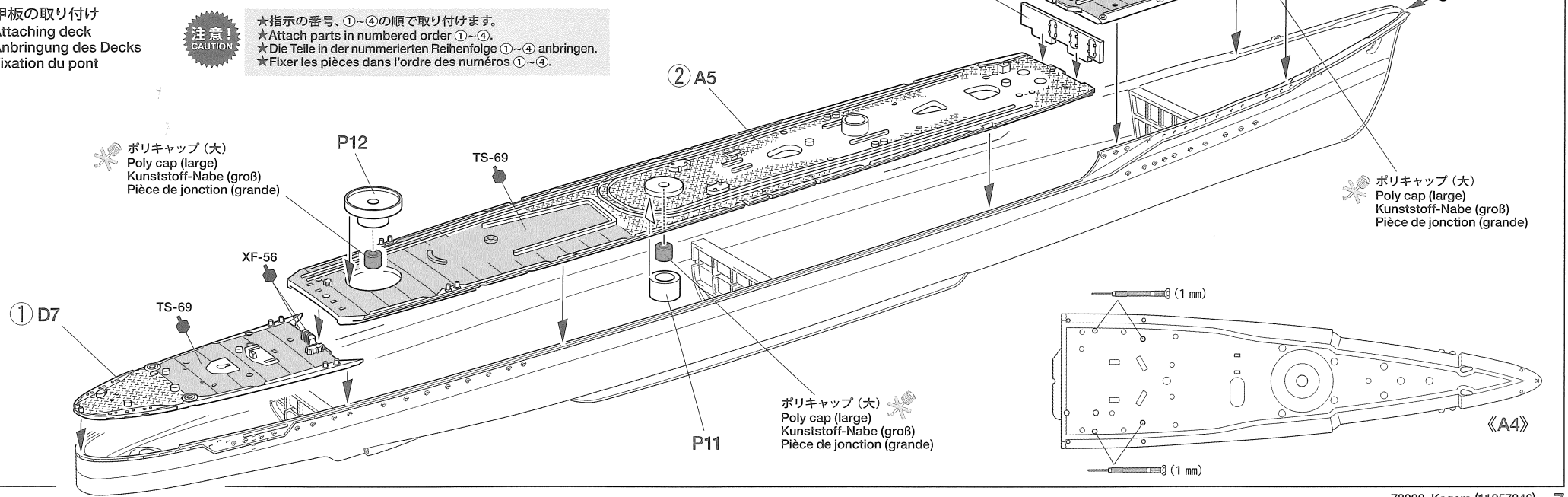


3

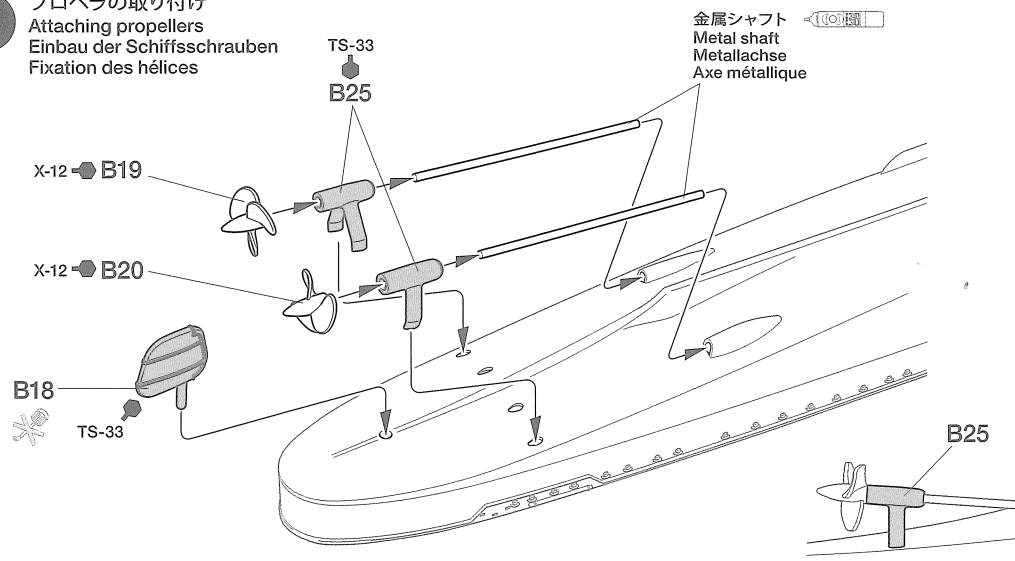
甲板の取り付け
Attaching deck
Anbringung des Decks
Fixation du pont

注意!
CAUTION

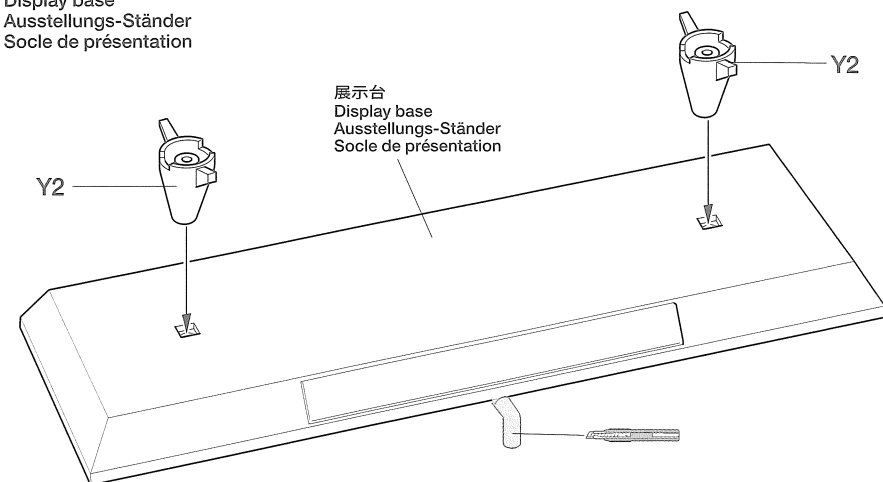
★指示の番号、①~④の順で取り付けます。
 ★Attach parts in numbered order ①~④.
 ★Die Teile in der nummerierten Reihenfolge ①~④ anbringen.
 ★Fixer les pièces dans l'ordre des numéros ①~④.



4 プロペラの取り付け
Attaching propellers
Einbau der Schiffsschrauben
Fixation des hélices

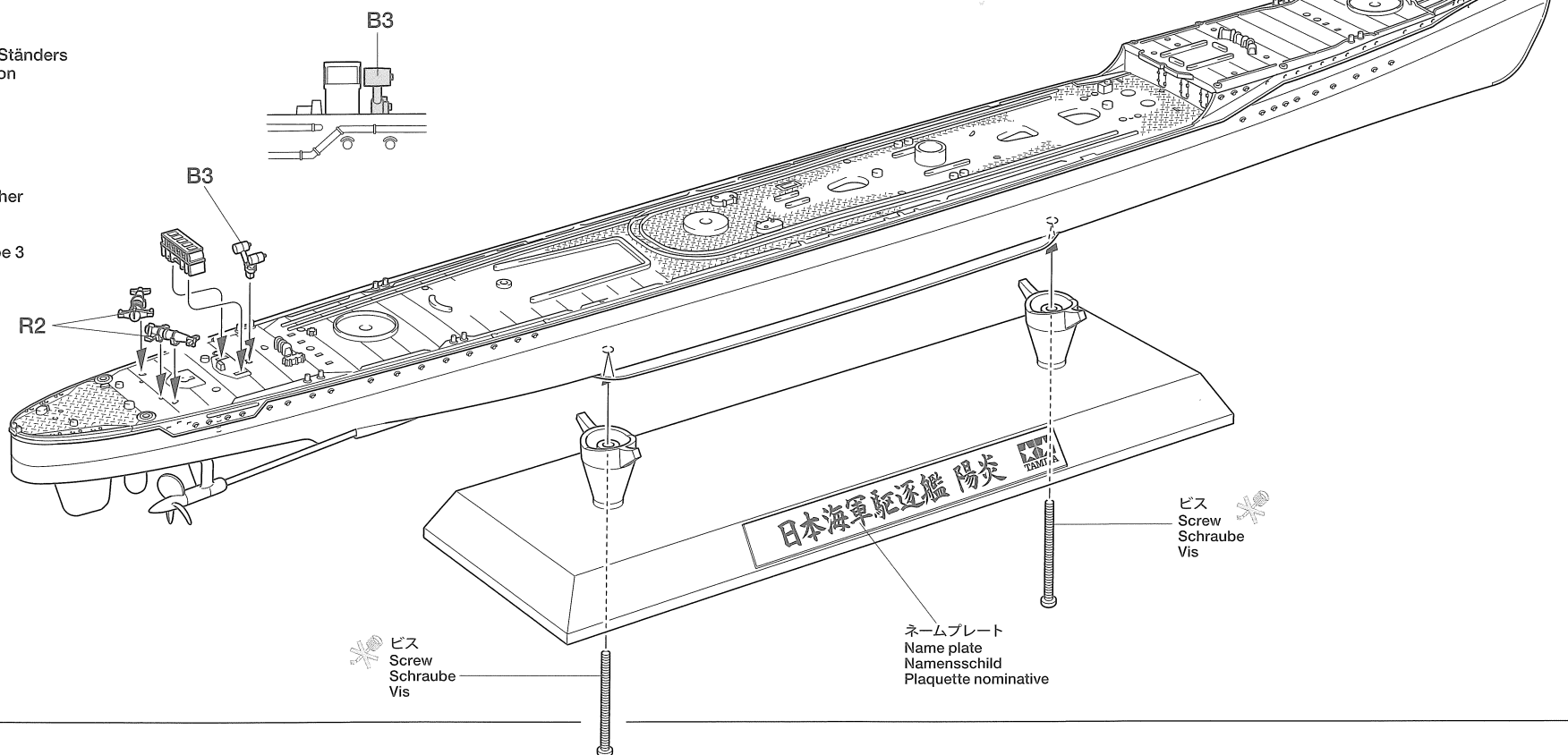
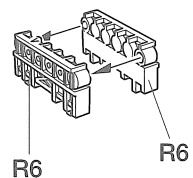


5 《展示台》
Display base
Ausstellungs-Ständer
Socle de présentation



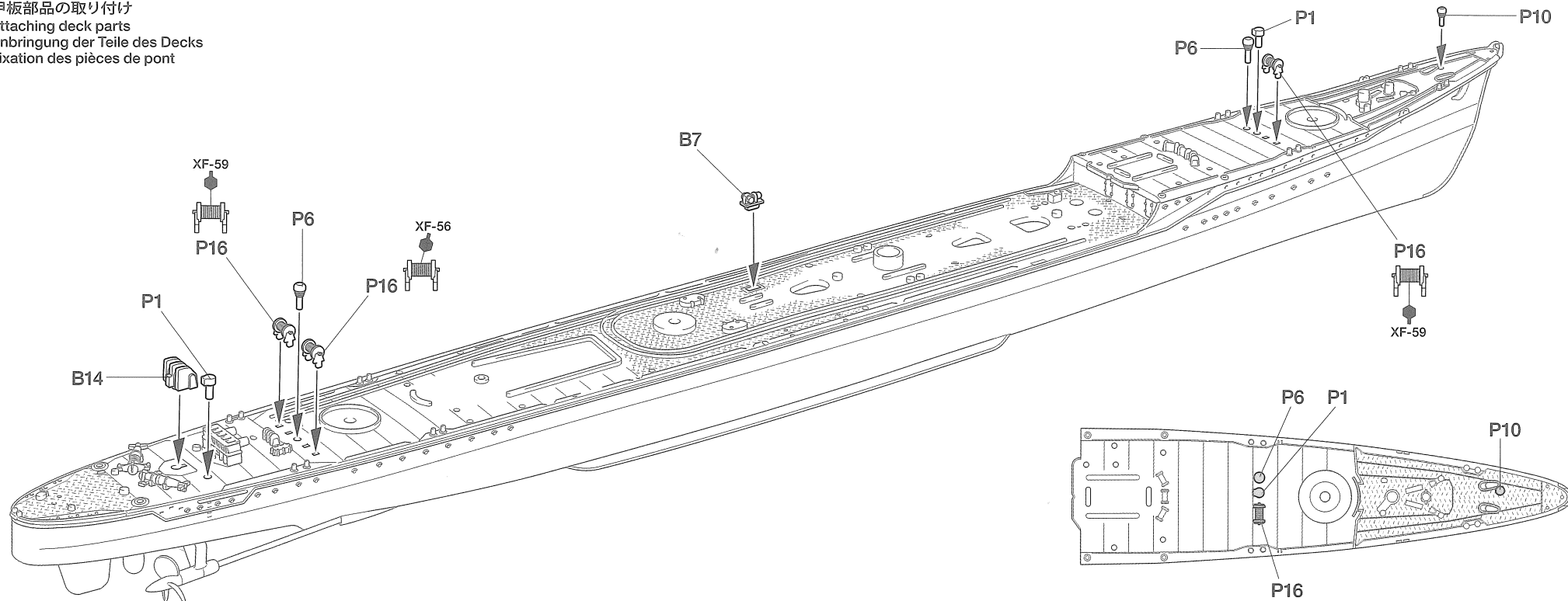
6 展示台の取り付け
Attaching display base
Befestigung des Ausstellungs-Ständers
Fixation au socle de présentation

《爆雷装填台3型》
Type 3 loader for depth charge launcher
Lader Typ 3 für Wasserbomben-
Abschussgerät
Chargeur de mines sous-marines type 3



7

甲板部品の取り付け
Attaching deck parts
Anbringung der Teile des Decks
Fixation des pièces de pont



8

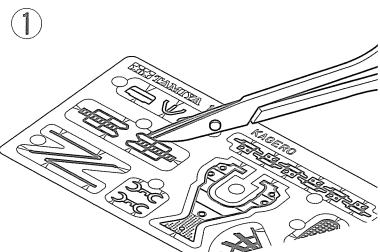
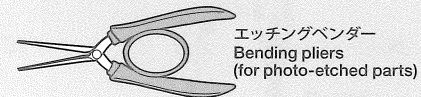
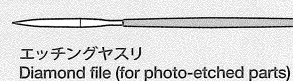
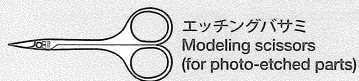
傾斜ハシゴの取り付け
Attaching ladders
Anbau der Leitern
Fixation des échelles

指示のエッチングパーツを取り付けます。
Attach photo-etched parts.
Die Fotogeätzten Teile anbringen.
Fixer les pièces photo-découpées.

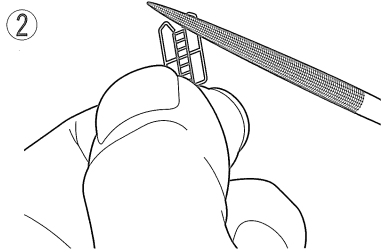
指示の部品を瞬間接着剤で取り付けます。
Apply instant cement.
Sekundenkleber auftragen.
Appliquer de la colle rapide.

《エッチングパーツの加工方法》
Photo-etched parts
Fotogeätzte Teile
Pièces photo-découpées

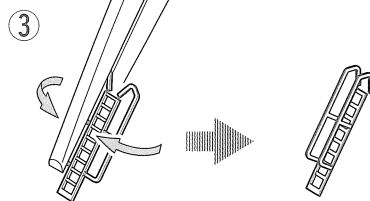
《エッチング用工具》
Useful tools
Nützliche Werkzeuge
Outils utiles



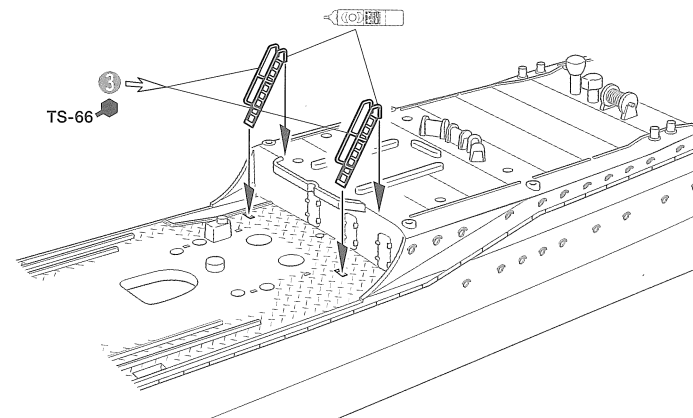
★エッチングパーツを丁寧に切り離します。
★Carefully cut out photo-etched parts.
★Die fotogeätzten Teile vorsichtig ausschneiden.
★Découper soigneusement les pièces en photo-découpe.



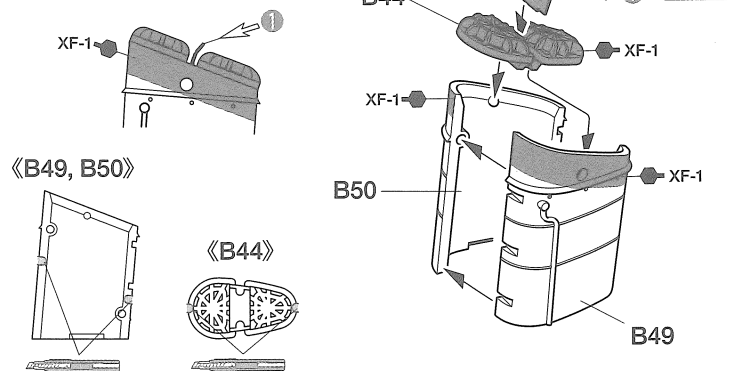
★ヤスリで余分な切り口をきれいにします。
★Carefully remove any excess.
★Alle Überstände vorsichtig entfernen.
★Eliminer soigneusement les excédents.



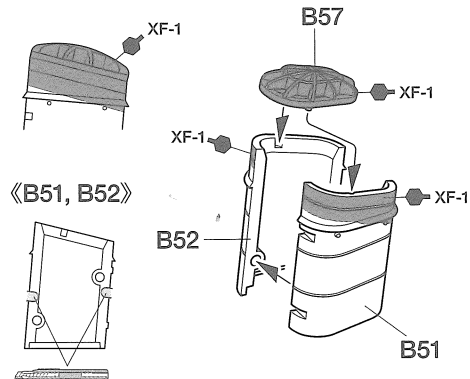
★エッチングベンダーで図のように折り曲げます。
折り曲げる時は、丁寧に曲げて下さい。
★Bend photo-etched parts using bending pliers.
Carefully bend as shown.
★Die fotogeätzten Teile mit einer Biegezange zurechtbiegen. Vorsichtig biegen wie abgebildet.
★Plier les pièces photo-découpées avec des pinces. Plier avec soin comme montré.



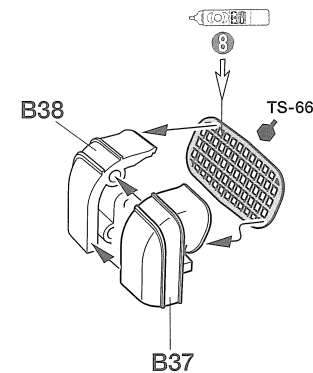
9 《前部煙突》
Fore funnel
Vorderer Schlot
Cheminée avant



《後部煙突》
Aft funnel
Hinterer Schlot
Cheminée arrière

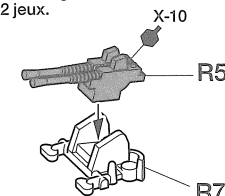


10 《通気筒》
Ventilator
Manche à air



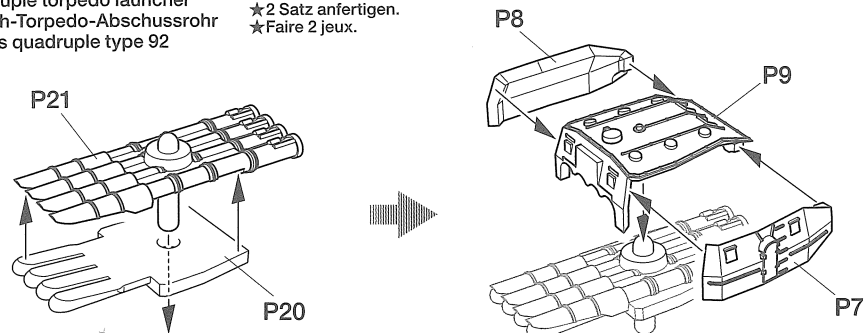
11 《九六式25mm二連装機銃》
Twin Type 96 25mm gun mounts
Sockel für 25mm Zwillingskanone Typ 96
Affûts double de 25mm Type 96

★2個作ります。
★Make 2.
★2 Satz anfertigen.
★Faire 2 jeux.



12 《九二式61cm四連装魚雷発射管》
Type 92 quadruple torpedo launcher
Typ 92 Vierfach-Torpedo-Abschussrohr
Lance-torpilles quadruple type 92

★2個作ります。
★Make 2.
★2 Satz anfertigen.
★Faire 2 jeux.

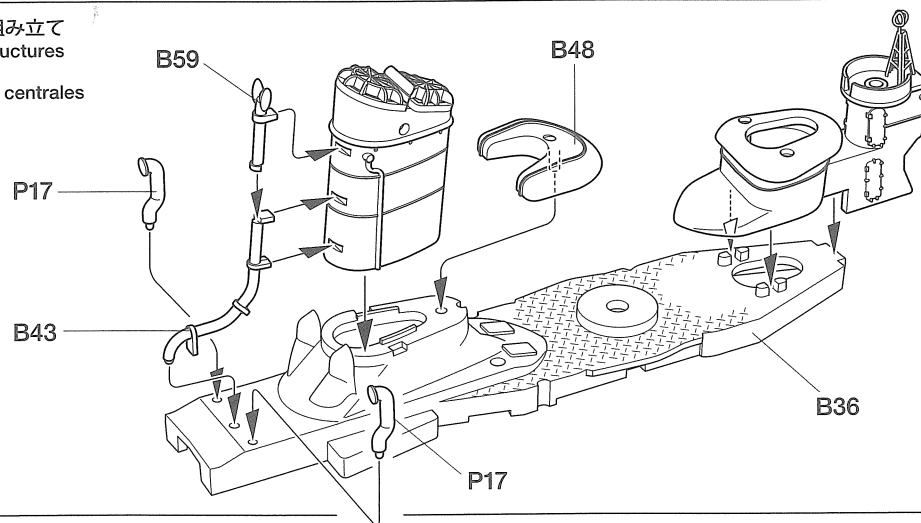


13 《後部操舵所》
Aft bridge
Hintere Brücke
Superstructure arrière

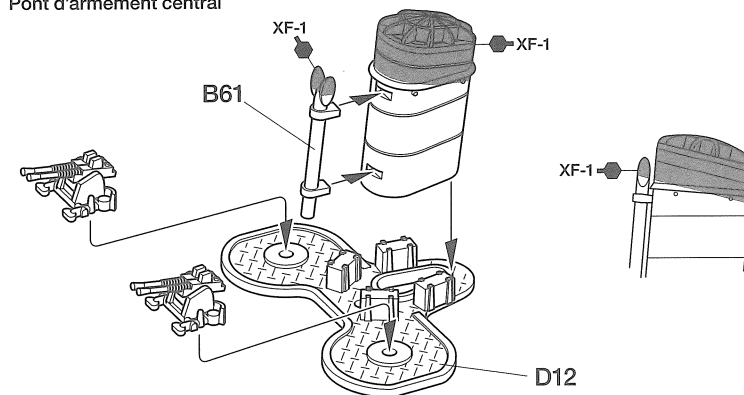


★図の向きに折り曲げます。
★Bend as shown.
★Wie gezeigt biegen.
★Plier comme indiqué.

14 中央構造物の組み立て
Central superstructures
Mittelaufbau
Superstructures centrales

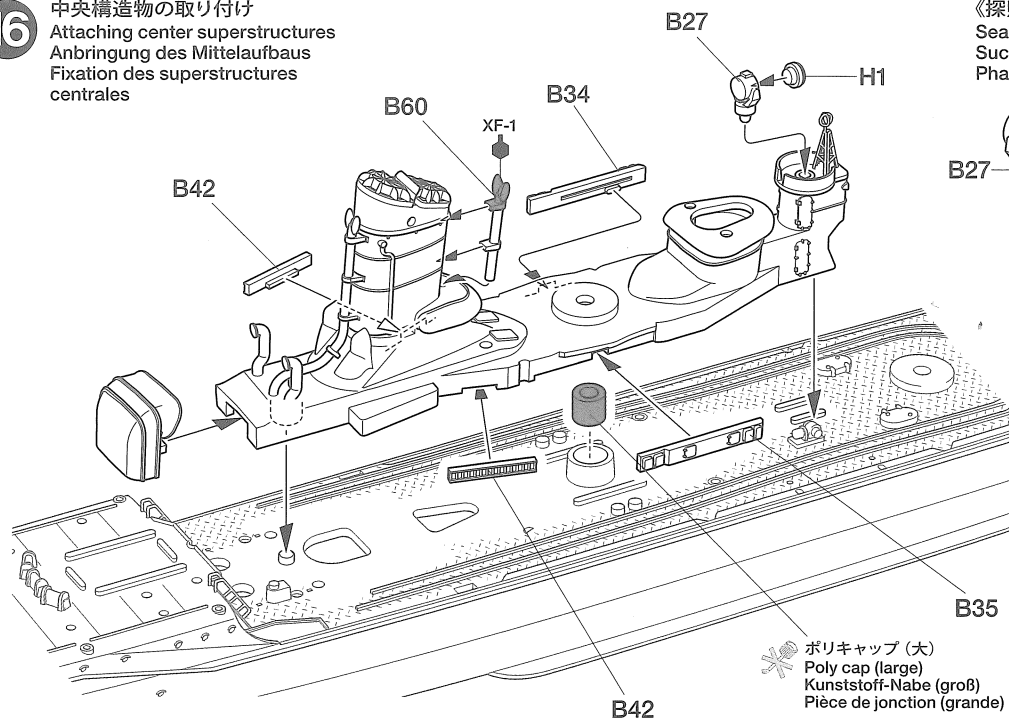


15 中央機銃座の組み立て
Central gun deck
Mittleres Kanonendeck
Pont d'armement central

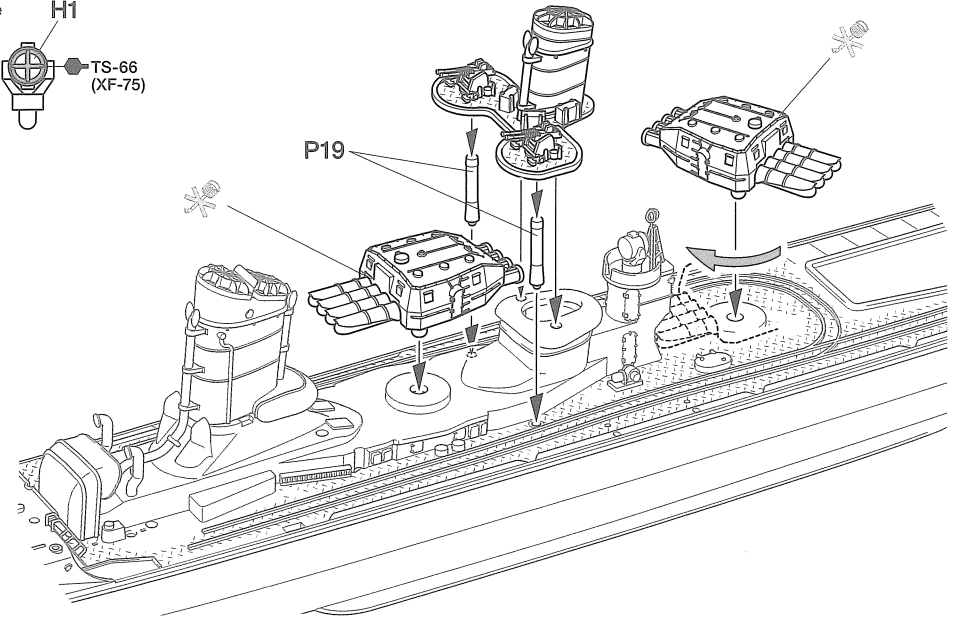
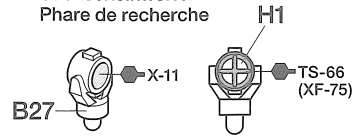


16

中央構造物の取り付け
 Attaching center superstructures
 Anbringung des Mittelaufbaus
 Fixation des superstructures
 centrales

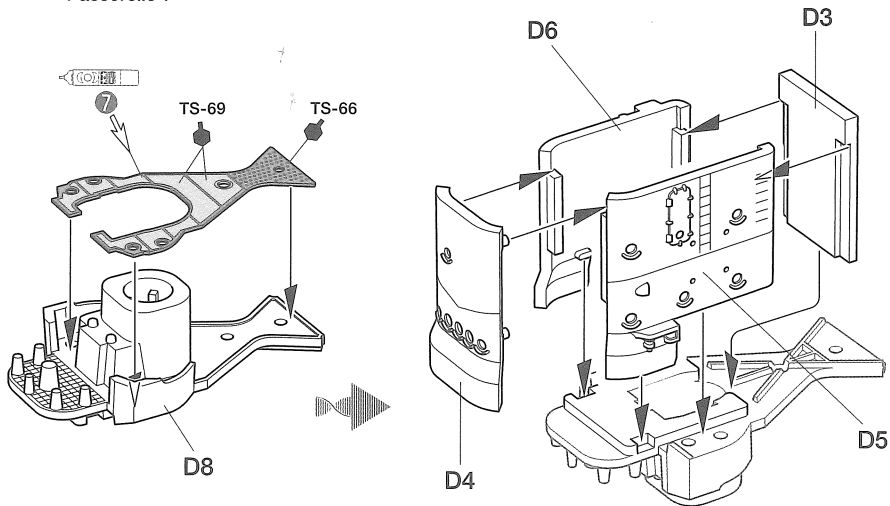


《探照燈》
 Searchlight
 Suchscheinwerfer
 Phare de recherche



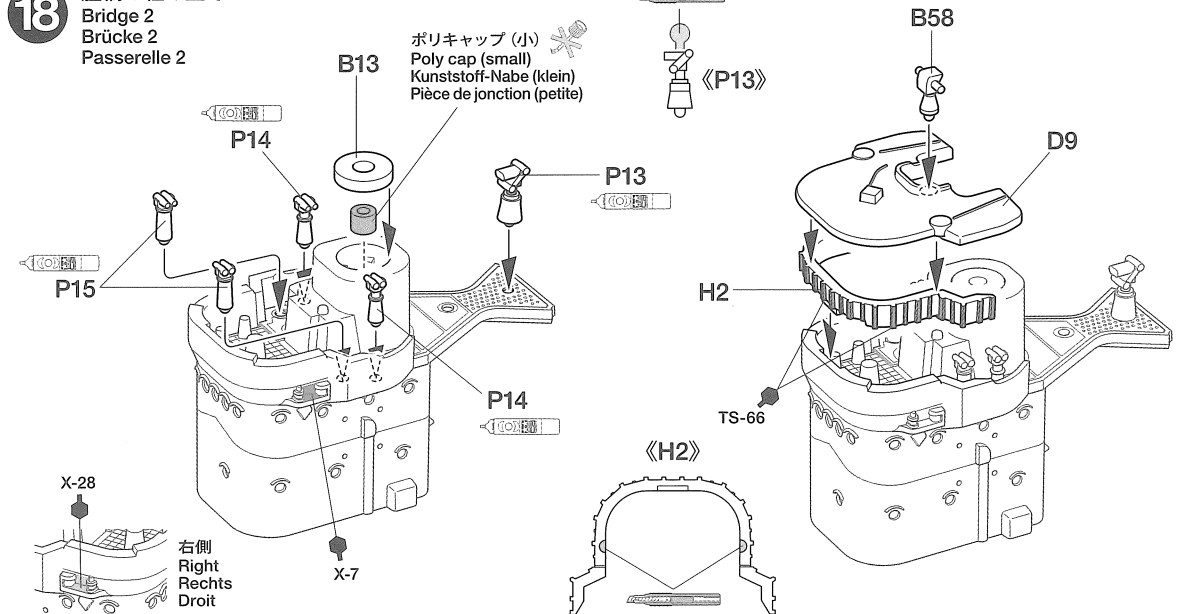
17

艦橋の組み立て 1
 Bridge 1
 Brücke 1
 Passerelle 1



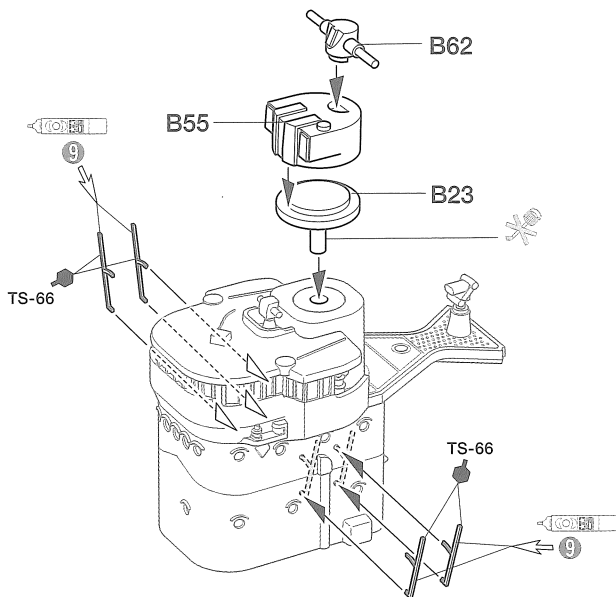
18

艦橋の組み立て 2
 Bridge 2
 Brücke 2
 Passerelle 2



19

九四式方位盤照準装置の取り付け
Attaching Type 94 gun director
Anbau Zielzuweiser Typ 94 für Flugabwehrgeschütz
Fixation du pointeur Type 94



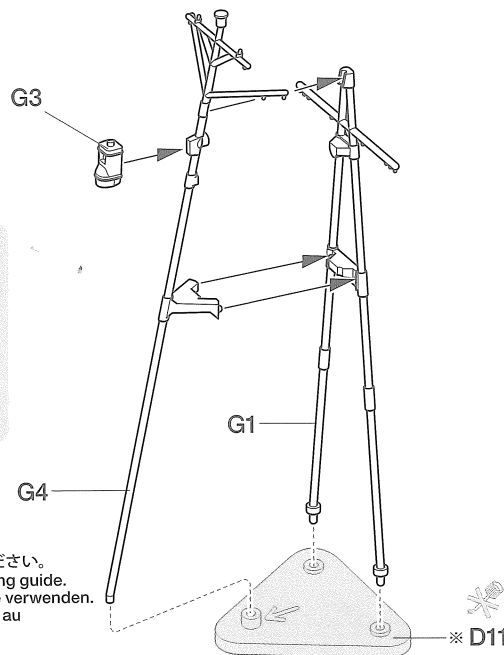
20

《前部マスト》
Fore mast
Vorderer Mast
Mât avant



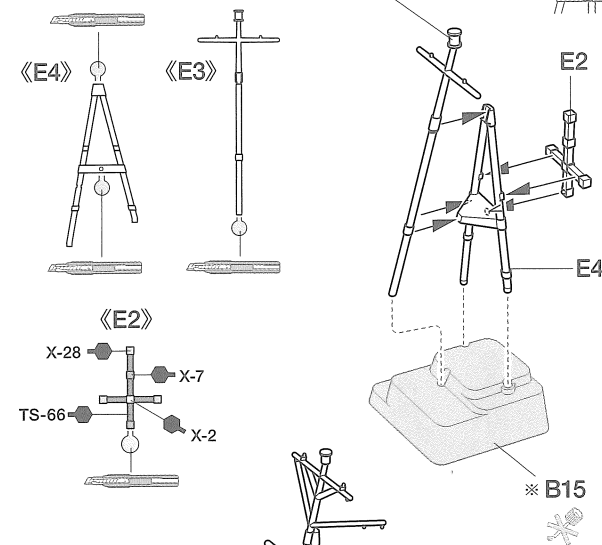
★E, G部品の接着には別売のABS用接着剤をお使いください。
★Use Tamiya Cement for ABS (sold separately) to attach E and G parts.
★Zum Anbau der Teile E und G Tamiya Kleber für ABS (separat erhältlich) verwenden.
★Employer de la colle Tamiya pour ABS (disponible séparément) pour fixer le pièces E et G.

※D11, B15は治具としてお使いください。
※Use D11 and B15 as a positioning guide.
※D11 und B15 als Positionierhilfe verwenden.
※Utiliser D11 et B15 comme aide au positionnement.



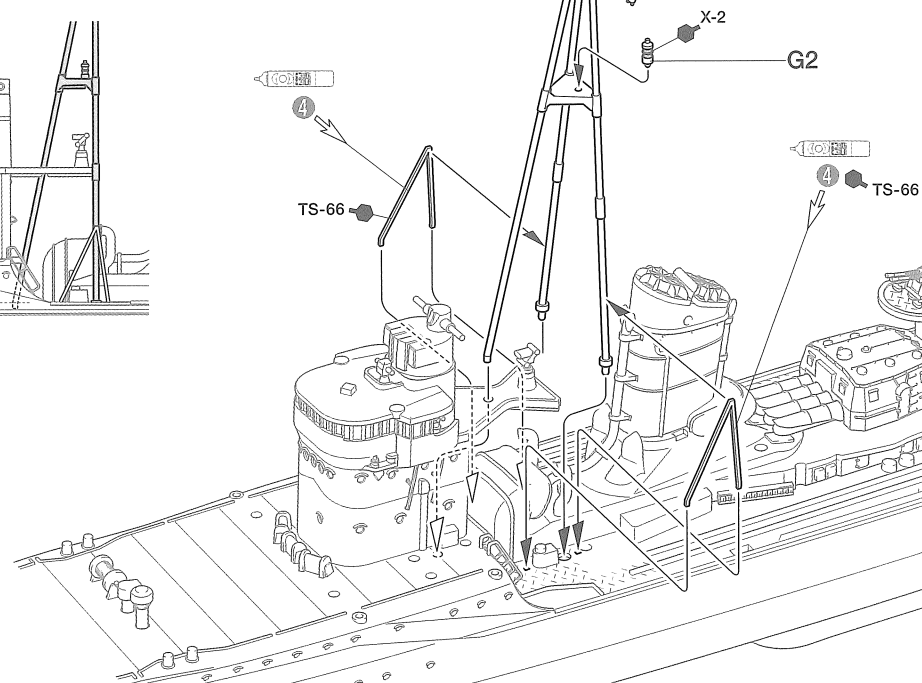
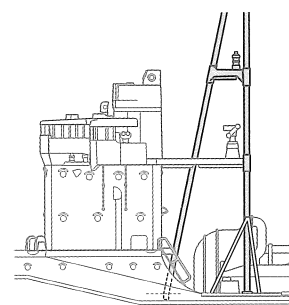
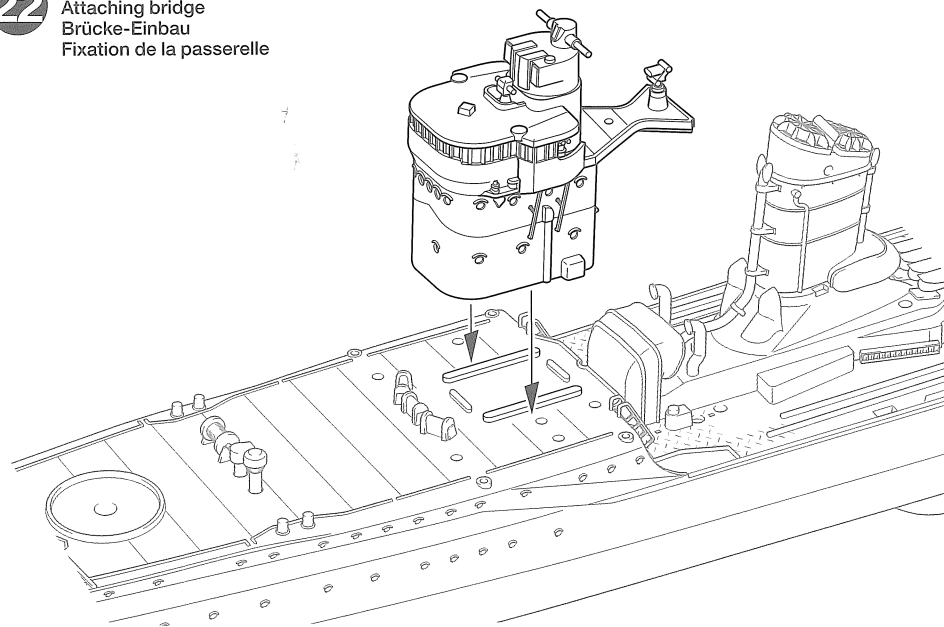
21

《後部マスト》
Aft mast
Hinterer Mast
Mât arrière



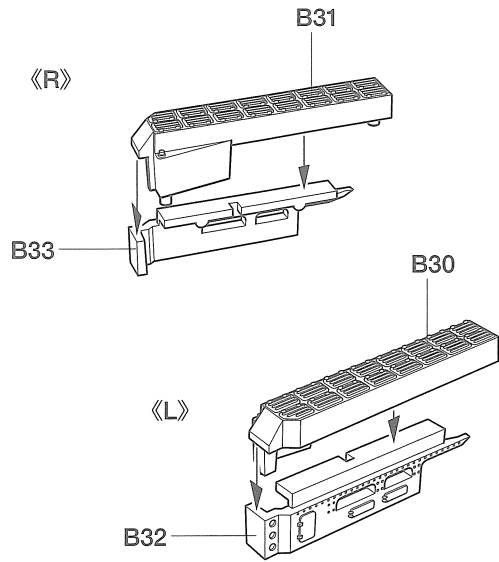
22

艦橋の取り付け
Attaching bridge
Brücke-Einbau
Fixation de la passerelle



23

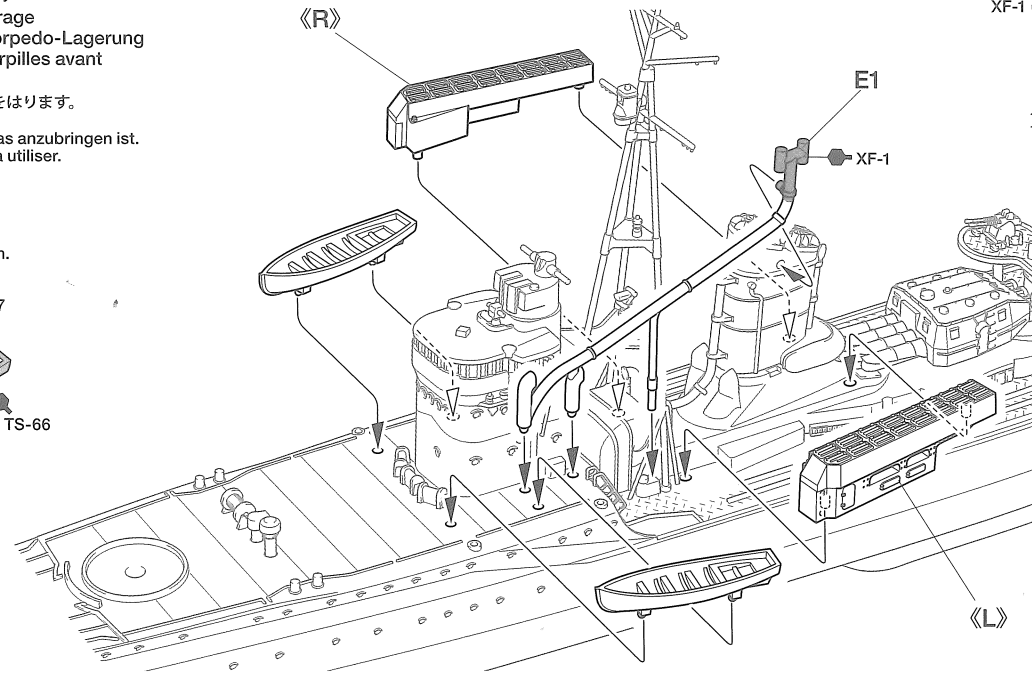
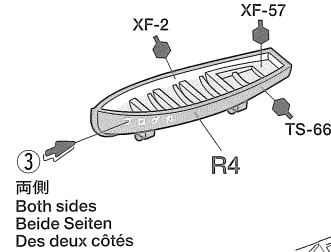
《前部魚雷格納所》
Fore torpedo storage
Vordere Torpedo-Lagerung
Magasin à torpilles avant

**24**

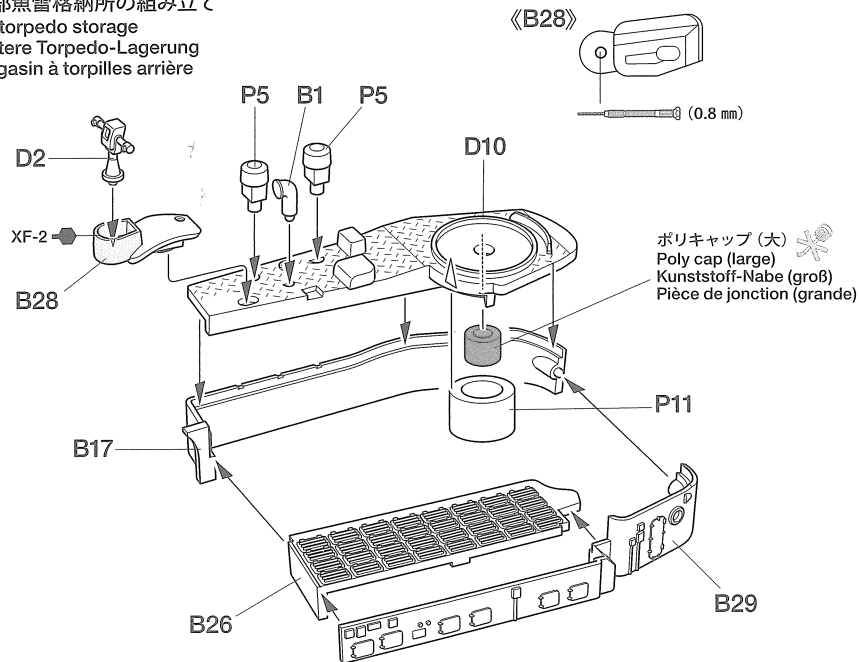
前部魚雷格納所の取り付け
Attaching fore torpedo storage
Befestigen der vorderen Torpedo-Lagerung
Fixation des magasins à torpilles avant

 指示の番号のスライドマークをはります。
Number of decal to apply.
Numéro des Abziehbildes, das anzubringen ist.
Numéro de la décalcomanie à utiliser.

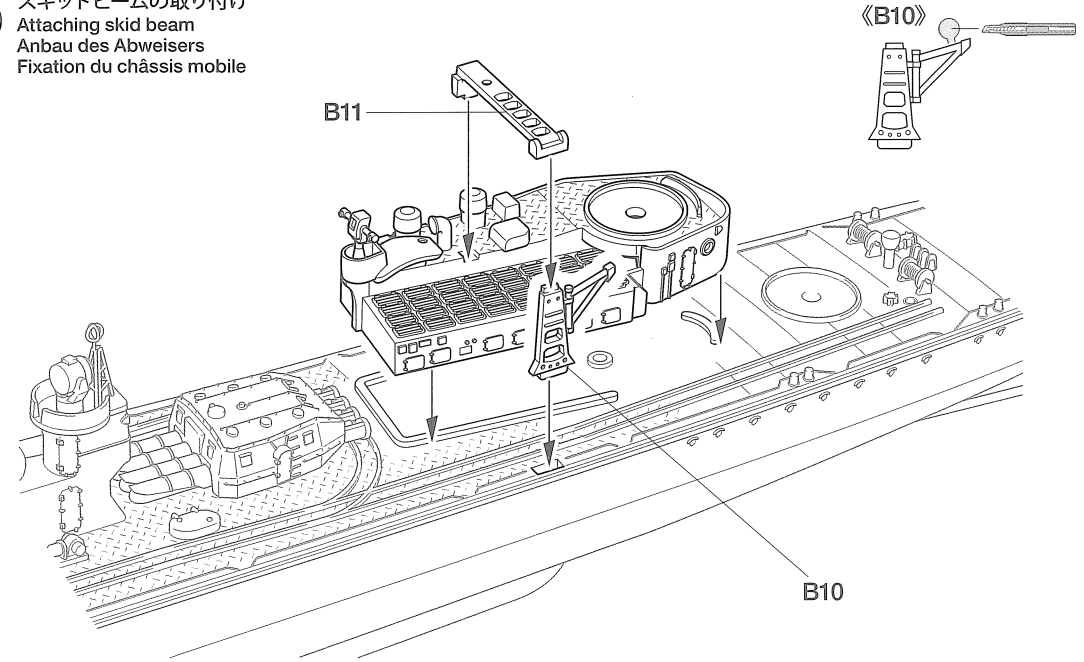
《7mカッター》 ★2個作ります。
7m cutter ★Make 2.
7m Kutter ★2 Satz anfertigen.
Côte de 7m ★Faire 2 jeux.

**25**

後部魚雷格納所の組み立て
Aft torpedo storage
Hintere Torpedo-Lagerung
Magasin à torpilles arrière

**26**

スキッドビームの取り付け
Attaching skid beam
Anbau des Abweisers
Fixation du châssis mobile



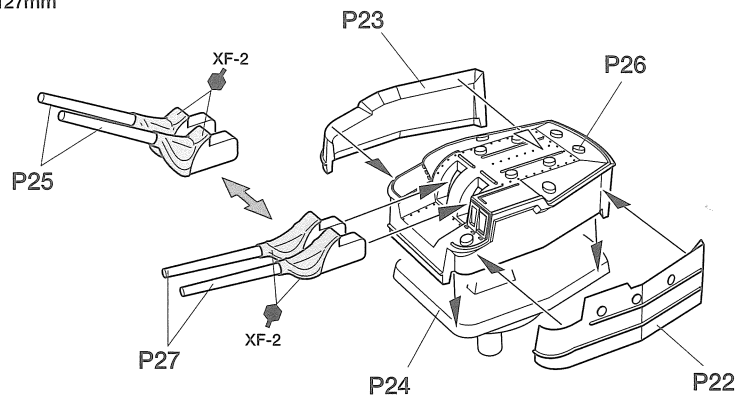
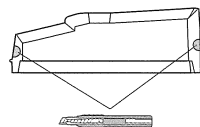
27

《12.7cm連装砲塔》
Twin 12.7cm gun turrets
12,7cm Kanonen-Doppeltürme
Tourelles doubles de 127mm

★3個作ります。
★Make 3.
★3 Satz anfertigen.
★Faire 3 jeux.

★主砲の角度を選べます。
★Choose gun angle.
★Einen Kanonenwinkel wählen.
★Choisir l'angle des canons.

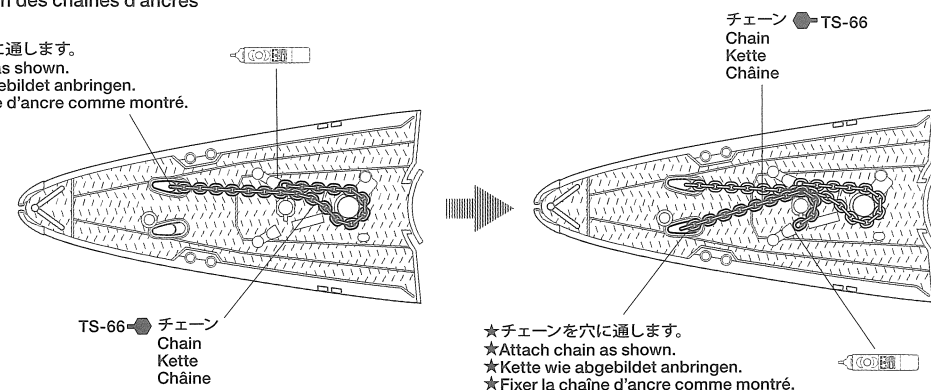
《P22, P23》



28

アンカーチェーンの取り付け
Attaching anchor chains
Anbringen der Ankerkette
Fixation des chaînes d'ancre

★チェーンを穴に通します。
★Attach chain as shown.
★Kette wie abgebildet anbringen.
★Fixer la chaîne d'ancre comme montré.

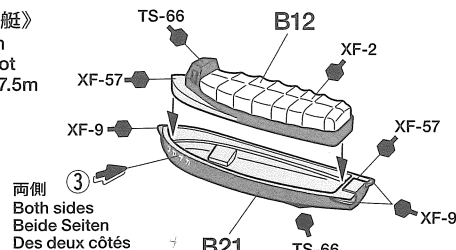


★チェーンを穴に通します。
★Attach chain as shown.
★Kette wie abgebildet anbringen.
★Fixer la chaîne d'ancre comme montré.

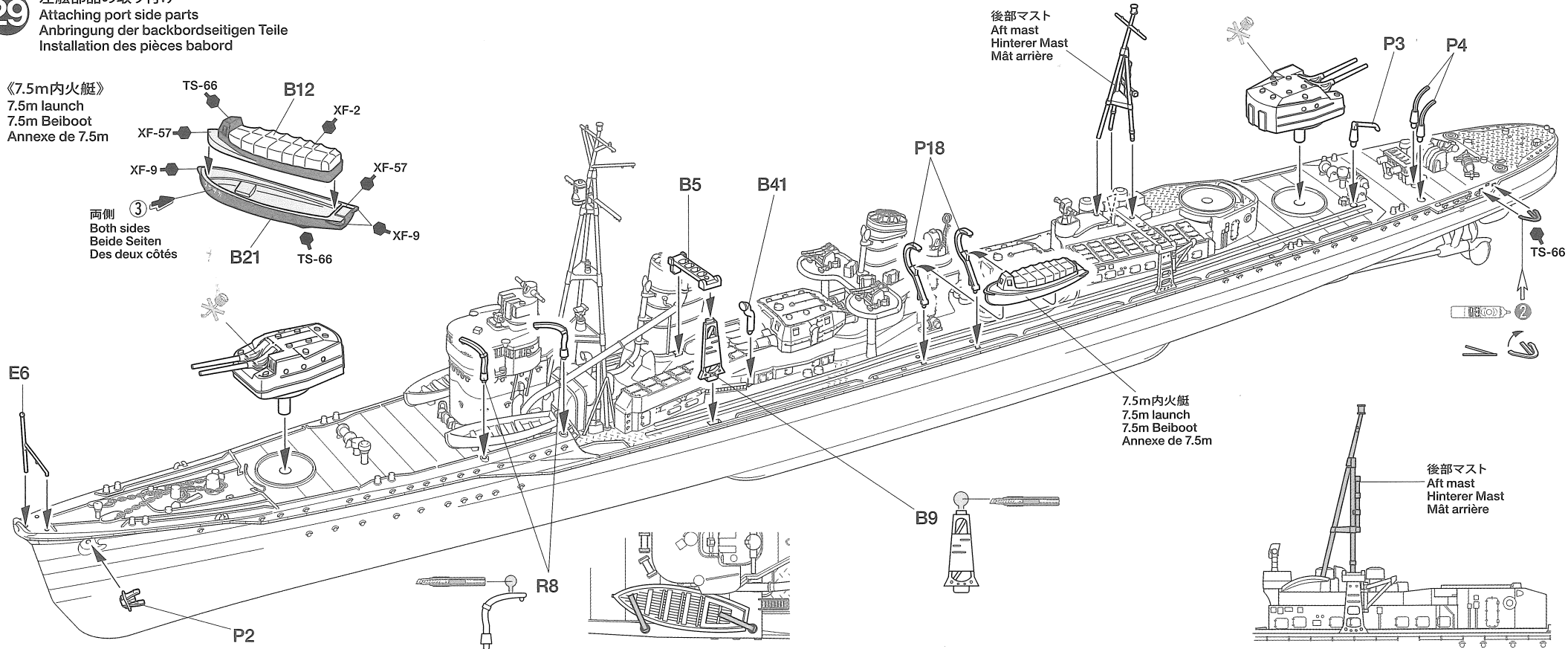
29

左舷部品の取り付け
Attaching port side parts
Anbringung der backbordseitigen Teile
Installation des pièces babord

《7.5m内火艇》
7.5m launch
7.5m Beiboot
Annexe de 7.5m



③ 両側
Both sides
Beide Seiten
Des deux côtés



7.5m内火艇
7.5m launch
7.5m Beiboot
Annexe de 7.5m

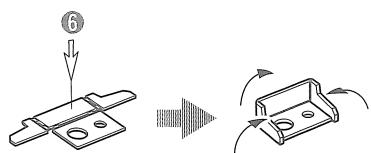
後部マスト
Aft mast
Hinterer Mast
Mât arrière

30

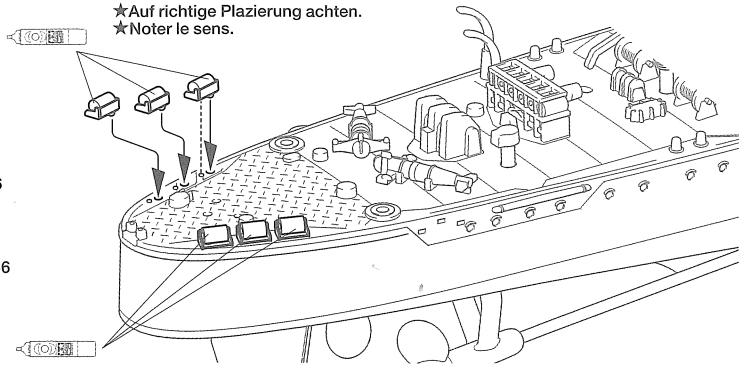
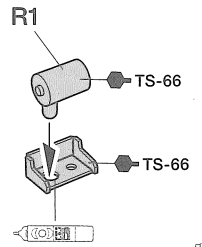
爆雷の取り付け
Attaching depth charges
Anbau der Wasserbomben
Fixation des mines sous-marines

★6個作ります。
★Make 6.
★6 Satz anfertigen.
★Faire 6 jeux.

★取り付け向きに注意。
★Note direction.
★Auf richtige Platzierung achten.
★Noter le sens.



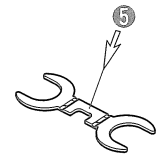
★図の向きに折り曲げます。
★Bend as shown.
★Wie gezeigt biegen.
★Plier comme indiqué.



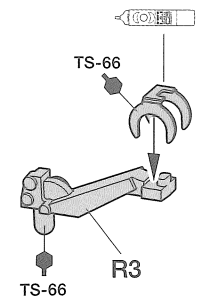
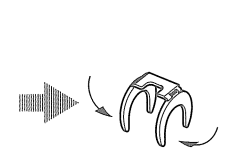
31

《防雷具用落下機》
Paravane crane
Kran
Grue de paravane

★2個作ります。
★Make 2.
★2 Satz anfertigen.
★Faire 2 jeux.



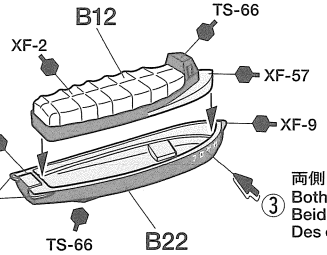
★図のように取り付けます。
★Attach as shown.
★Gemäß Abbildung einbauen.
★Fixer comme indiqué.



32

右舷部品の取り付け
Attaching starboard side parts
Anbringung der steuerbordseitigen Teile
Installation des pièces tribord

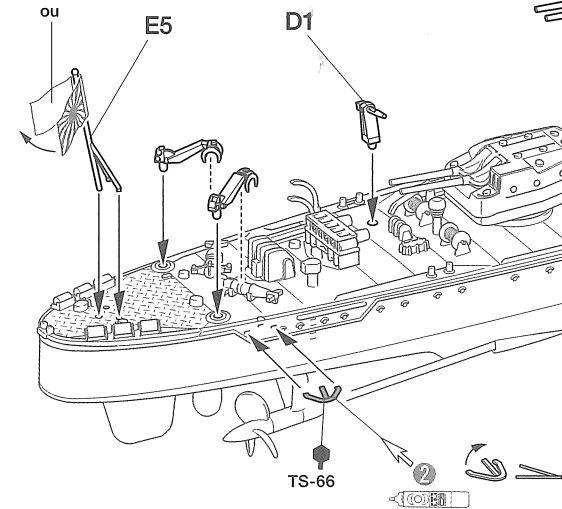
《7.5m内火艇》
7.5m launch
7.5m Beiboot
Annexe de 7.5m



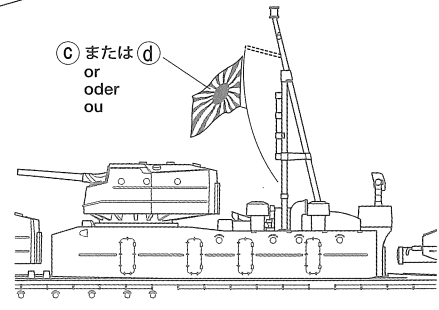
③ 両側
Both sides
Beide Seiten
Des deux côtés

7.5m内火艇
7.5m launch
7.5m Beiboot
Annexe de 7.5m

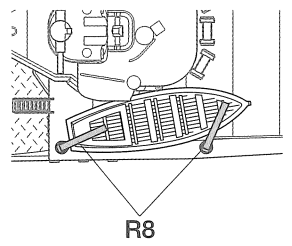
(c) または (d)
or
oder
ou



(c) または (d)
or
oder
ou



★戦闘時、海軍旗は図のように掲揚されていました。
★Ensigns were hoisted as shown during battle.
★Wie abgebildet wurden die Flaggen während der Schlacht gehisst.
★En combat, les fanions étaient hissés comme montré.



PAINTING

《陽炎の塗装》

日本の海軍艦艇の塗装には、戦時塗色と呼ばれる少し青みを帯びた濃い灰色が使われていました。これは日露戦争直前に採用されて以来、太平洋戦争終結まで変更されませんでした。喫水線以下の艦底はマルーンと呼ばれる暗い赤色です。甲板は鉄板張り、防音・防熱用の被覆材であるリノリウム張りが使われ、鉄板張りは艦体と同色、リノリウム張りは赤茶色でした。また、煙突の上頂部は黒で塗装され、砲身基部の防水カバーは明るい灰色でした。細部の塗装は組立図中に指示しました。

Painting the Kagero

From just before the Russo-Japanese War until the end of WWII, Japanese Navy ships were painted in a dark, blue-tinged gray color. The hull beneath the waterline was painted in maroon. The deck had steel plate sections the same color as the hull, and sections covered with red-brown linoleum to reduce noise and heat. Funnel tips were painted black, and the waterproof covers at the base of the gun barrels were light gray.

Lackieren der Kagero

Ab dem Russisch-Japanischen Krieg bis zum Ende des Zweiten Weltkriegs waren die Schiffe der Japanischen Marine in dunkelgrauer, leicht bläulicher Farbe lackiert. Der Rumpf unterhalb der Wasserlinie war mit dunkelroter, kastanienbrauner Farbe gestrichen. Das Deck bestand aus Stahlplatten, welche in der gleichen Farbe wie der Rumpf gestrichen waren. Einige Bereiche waren wegen der Geräusentwicklung und der Hitze mit rotbraunem Linoleum belegt. Die Schornsteinspitzen waren schwarz gestrichen und die wasserdichten Abdeckungen am Sockel der Kanonenrohre waren hellgrau.

Peinture du Kagero

De la Guerre Russo-Japonaise à la fin de la 2^{ème} G.M., les navires de la Marine Japonaise étaient peints en gris foncé bleuâtre. Les œuvres vives (sous la ligne de flottaison) étaient rouge foncé marron. Le pont était constitué de plaques d'acier peintes dans la même teinte que la coque, et de sections recouvertes de linoleum rouge brun pour réduire le bruit et la chaleur. Les extrémités des cheminées étaient noires et les manchons étanches des tubes des canons gris clair.

APPLYING DECALS

《スライドマークのはり方》

- ①はりたいマークをハサミで切り抜きます。
- ②マークをぬるま湯に10秒ほどひたしてからタオル等の布の上に置きます。
- ③台紙のはしを手で持ち、はるところにマークをスライドさせてモデルに移してください。
- ④指に少し水をつけてマークをぬらしながら、正しい位置にずらしします。
- ⑤やわらかな布でマークの内側の気泡を押し出しながら、押しつけるようにして水分をとります。

DECAL APPLICATION

- ①Cut off decal from sheet.
- ②Dip the decal in tepid water for about 10 sec. and place on a clean cloth.
- ③Hold the backing sheet edge and slide decal onto the model.
- ④Move decal into position by wetting decal with finger.
- ⑤Press decal down gently with a soft cloth until excess water and air bubbles are gone.

ANBRINGUNG DES ABZIEHBILDES

- ①Abziehbild vom Blatt ausschneiden.
- ②Das Abziehbild ungefähr 10 Sek. in lauwarmes Wasser tauchen, dann auf saubere Stoff legen.
- ③Die Kante der Unterlage halten und das Abziehbild auf das Modell schieben.
- ④Das Abziehbild an die richtige Stelle schieben und dabei mit dem Finger das Abziehbild naßmachen.
- ⑤Das Abziehbild leicht mit einem weichen Tuch andrücken, bis überschüssiges Wasser und Luftblasen entfernt sind.

APPLICATION DES DECALCOMANIES

- ①Découpez la décalcomanie de sa feuille.
- ②Plongez la décalcomanie dans de l'eau tiède pendant 10 secondes environ et poser sur un linge propre.
- ③Retenez la feuille de protection par le côté et glissez la décalcomanie sur le modèle réduit.
- ④Placez la décalcomanie à l'endroit voulu en la mouillant avec un de vos doigts.
- ⑤Pressez doucement la décalcomanie avec un tissu doux jusqu'à ce que l'eau en excès et les bulles aient disparu.

タミヤカスタマーサービス取次店

パーツのお取り寄せに大変便利です。



部品請求について

For use in Japan only!

★部品をなくしたり、こわした方は、このステッカーがはられたカスタマーサービス取次店でご注文いただけます。また、当社カスタマーサービスに直接ご注文する場合は、右記の方法でご注文することができます。詳しくは当社カスタマーサービスまでお問い合わせください。

①《郵便振替のご利用法》

郵便局の払込用紙の通信欄に下のリストを参考にITEM番号、スケール、製品名、部品名、部品コード、数量を必ずご記入ください。振込人住所欄にはお電話番号もお書きいただき、口座番号・00810-9-1118、加入者名・(株)タミヤでお振ください。

②《代金引換のご利用法》

パーツ代金に加えて代引き手数料(324円)をご負担いただければ、電話またはホームページより代金引換によるご注文をお受けいたします。

③《タミヤカードのご利用法》

タミヤカードをご利用の場合、代金はご指定金融機関の口座引き落としとなります。ご注文は電話またはホームページよりお受けいたします。

日本海軍駆逐艦 陽炎

ITEM 78032

★価格は2015年11月現在のものです。予告なく変更となる場合があります。
★税込価格の税率は8%となっています。

部品名	税込価格	本体価格	送料	部品コード
船底	820円	(760円)	-	19337076
喫水板	658円	(610円)	-	19337075
A/パーツ	1,004円	(930円)	-	19007181
B/パーツ	896円	(830円)	-	19007182
D/パーツ	561円	(520円)	-	10008638
E、G/パーツ	540円	(500円)	-	19007255
H/パーツ	367円	(340円)	-	19007185
P、R/パーツ(x2)	669円	(620円)	-	19117066
Y/パーツ、展示台	442円	(410円)	-	19227013
エッチングパーツ	756円	(700円)	-	19407290
金具袋詰	410円	(380円)	-	19407291
ポリキャップ(大x10)	129円	(120円)	-	19442022
ポリキャップ(小x8)	216円	(200円)	-	10446168
スライドマーク	302円	(280円)	-	11407051
ネームプレート	280円	(260円)	-	11437290
艦旗シート	237円	(220円)	-	11407033
説明図	345円	(320円)	-	11057346
塗装図	324円	(300円)	-	11257011

AFTER MARKET SERVICE CARD

When purchasing replacement parts, please take or send this form to your local Tamiya dealer so that the parts required can be correctly identified. Please note that specifications, availability and price are subject to change without notice.

Parts code	ITEM 78032
19337076	Hull
19337075	Waterline Plate
19007181	A Parts
19007182	B Parts
10008638	D Parts
19007255	E, G Parts
19007185	H Parts
19117066	P, R Parts (x2)
19227013	Y Parts, Display Base
19407290	Photo-Etched Parts
19407291	Metal Parts Bag
19442022	Poly Cap (Large, x10)
10446168	Poly Cap (Small, x8)
11407051	Decals
11437290	Name Plate
11407033	Flag Sheet
11057346	Instructions
11257011	Painting Guide

《住所》 〒422-8610 静岡県駿河区恩田原3-7
株式会社タミヤ カスタマーサービス

《お問い合わせ電話番号》

静岡 054-283-0003
東京 03-3899-3765 (静岡へ自動転送)
※電話番号をお確かめの上、おかけ間違いのないようお願いいたします。

《カスタマーサービスアドレス》

http://tamiya.com/japan/customer/cs_top.htm



1/350
Ship